

令和3年度 第14回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和3年11月30日（火）

2 会議の場所

名取市役所3階 議会棟第3・第4委員会室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 佐藤 俊隆

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 荒井 龍弥

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

菊池教育部長、鈴木理事兼学校教育課長事務取扱、大澤教育部次長兼生涯学習課長、芳賀教育総務課長、小松文化・スポーツ課長兼復興ありがとうホストタウン推進室長兼市史編さん準備室長、齋藤こども支援課長、高橋指導主事、森下指導主事、佐藤生涯学習課長補佐、宇田教育部企画員兼教育総務課長補佐、菅原教育総務課教育総務係長

7 議題

(1) GIGAスクール構想(モデル校の取組)について

(2) 下増田公民館と下増田児童センターの合築について

8 開会時間

午前9時30分

9 会議の概要

芳賀教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に入ります前に、資料の確認をお願いします。第14回名取市総合教育会議次第と、出席者名簿をご用意させていただいております。不足がありましたらお教え願いたいと存じます。よろしいでしょうか。

また、本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ第14回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症も、ようやく落ち着いてきたようにも感じておりましたが、ここにきてオミクロン株という、新たな変異株が出て、大変憂慮しているところです。

いずれ、少しずつかつての生活を取り戻していけるように、できる対応を、教育現場ともしっかり連携をして進めていきたいと考えているところです。

本日の総合教育会議のテーマは、「GIGAスクール構想（モデル校の取組）について」と「下増田公民館と下増田児童センターの合築について」ということで、第12回の総合教育会議でも同じテーマではありますが、その後の経過等について情報共有をさせていただきながら、さらに議論を深めてまいりたいと考えているところでございます。ぜひ、皆さんの忌憚のない意見をいただければと思います。今日はよろしく申し上げます。

芳賀教育総務課長

それでは、3の議題に入ります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めていただきます。山田市長、よろしくお願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしくお願いいたします。

まず初めに、議題（1）GIGAスクール構想（モデル校の取組）についてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

鈴木理事兼学校教育課長事務取扱

学校教育課の鈴木でございます。お手元のプレゼン資料、黄色いスライドが載っているものと、別紙1、令和3年、4年の名取市のiPad活用モデル事業、以上の資料になります。これから指導主事が、モニター画面でプレゼンをしながら説明を申し上げます。黄色いスライドの資料を使いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

森下指導主事

皆様、こんにちは。学校教育課の森下博史です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

では、GIGA スクール構想（各校の取組）について、説明いたします。

今年度から、高館小学校、相互台小学校、みどり台中学校において、名取市 iPad 活用モデル事業を展開しております。本日は、授業における iPad の効果的な使い方について説明いたします。

初めに、iPad の効果的な使い方として、課題や資料等を提示する場面での活用が挙げられます。授業の導入で、本時の目標や課題を児童生徒に提示することがあります。また、授業の中で、資料等を提示することもあります。これまでは、黒板に書いたり、掲示物を作成したりして、課題や資料等を提示していました。これが、iPad の導入により、課題や資料等の作成が容易になりました。

こちらは、英語の授業です。iPad で作った英語の課題を大型モニターに表示したものです。

こちらは、理科の授業です。iPad で撮影した実験器具の完成した形を大型モニターで、児童生徒に示しています。こちらは、算数の授業です。教員が iPad で作成した目的地までの経路の資料を児童生徒の iPad に送信したものです。児童生徒は送信された資料を自分の iPad で見ることができます。児童生徒が資料に書き込むこともできます。

次に、児童生徒の意見や考えを共有する場面での活用が挙げられます。新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。各学校では工夫した実践が行われています。授業では、児童生徒が自分の意見や考えをもとに、グループで話し合う場面が多く設定されています。これまでは、黒板やホワイトボード、画用紙などを使って、グループやクラス全体で一人一人の意見や考えの共有をしていました。これが、iPad の画面上で、児童生徒の意見や考えの共有ができるようになりました。

こちらは、英語の授業です。Jamboard というアプリを使って、英文をグループで作成しているところです。

こちらは、算数の授業です。iPad で撮影した児童生徒のノートなどを、大型モニターに表示することができます。大型モニターに表示されているのは、赤丸をつけた iPad で撮影した児童のノートです。この機能をエアドロップといいます。Wi-Fi を使わずに簡単に送信する機能です。他の児童生徒の iPad にも送信することができます。

次に、動画を記録する場面での活用が挙げられます。これまでは、ビデオカメラなどで撮影したり、友達から教えてもらったりして、自分の活動の様子を確かめていました。このため、事前の準備が必要でした。これが、児童生徒が自分の活動を iPad で記録できるようになりました。

こちらは、理科の授業です。電池で風車を回す実験の様子を iPad で記録しています。

こちらは、音楽の授業です。児童生徒がお互いに、箏の演奏を iPad で動画に記録しています。記録した動画は iPad で見ることができます。これにより、自分の技能を正確に確認できるようになりました。

こちらは、英語の授業です。英文の音読練習をお互いに iPad で動画に記録しています。

こちらは動画をご覧ください。

（英語の授業の様子を動画で視聴）

次に、アンケートを実施する場面での活用が挙げられます。これまでは、アンケート用紙

を準備し、児童生徒が記入していました。その後、回収、集計を行い、結果を発表していました。これが、大型モニターの2次元バーコードをiPadで撮影するだけで回答ができるようになりました。撮影すると、iPadにアンケートが表示されます。児童生徒は、その画面に入力するだけです。児童生徒が入力すると、自動で集計をします。自動で集計するので、このように、その場で集計結果の発表もできます。

次に、インターネットでの調べ学習をする場面での利用が挙げられます。これまでインターネットでの調べ学習は、コンピュータ室で実施していました。これが、iPadの導入により、普通教室でいつでもできるようになりました。

その他、iPadのアプリを活用した授業が行われています。

こちらは、音楽の授業です。アプリを使って作曲している様子です。このように、iPadが効果的に活用されています。

一方で、課題も見えてきました。

モデル校から挙げられた課題は大きく3点あります。

1点目は、iPadの機能やアプリの操作法の習得が必要で、時間を要することです。児童生徒はもちろんですが、教員もスキルの向上が求められます。

2点目は、不具合の発生が予想できないことです。iPad上にあるアプリやインターネットの接続が途中で停止することがあるという報告を受けています。こちらは、業者等と連携しながら不具合の解消に努めていきたいと思えます。

3点目は、授業の中でiPadを使うことが目的とならないことです。授業のねらいに沿ったiPadの効果的な使い方について、今後さらに実践を重ね、検証していく必要があります。

では、モデル校の今後の取組について、3点説明いたします。

初めに、オンライン学習です。高館小学校が10月13日に実施しました。そのときの様子を動画でご覧ください。

(動画で高館小学校のオンライン学習の様子を視聴)

2年生「〇から始まる言葉を答えよう」です。こちらは、担任の先生です。担任が、家にいる児童に対して、問題を出しています。最初は「カ」から始まる言葉を児童が答えています。次は、「ス」から始まる言葉です。担任だけでなく、ほかの児童ともやりとりができます。

次に、不登校支援への活用です。

現在、不登校児童生徒に対する学習支援などが求められています。そこで、iPadを効果的に活用できるのではないかと考えています。その最初の段階として、不登校児童生徒とオンライン形式での交流を行います。みどり台中学校が10月26日の公開授業で実施しました。

最後に、iPadの持ち帰りです。現在モデル校で実施しております。来年度からは、全ての学校で実施する予定です。いずれの取組も、さらに実践を進め、成果と課題を検証してまいります。

これで、GIGAスクール構想（各校の取組）についての説明を終わります。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

初めに、ただいまの説明で確認しておきたい事項や、去る 10 月 26 日にみどり台中学校、11 月 12 日に高館小学校でモデル授業の公開が行われましたが、その感想なども含めて、何かあれば、お願いします。

いかがでしょうか。皆さんご覧になりましたよね。荒井委員いかがでしょうか。

荒井委員

私は高館小学校にお邪魔しました。先生方も、当初、昨年の導入直後よりは操作もスムーズになってきたな、と思います。課題提示とか、教材提示といったところはすごく子供たちにもスムーズに行っていて、ストレスはないような感じがしました。そういう使い方は iPad を上手く使っているんじゃないかな、と考えたところでした。

山田市長

ありがとうございます。佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

iPad の一番の利点は課題提示だろうな、とは思っています。私も 3 年ぐらい毎時間 iPad で課題提示をする、というか、英語の場合だと、教科書を撮影して、本文を拡大表示して、それを見ながら音読をするということで、非常に集中力が高まって良かったり、音声も入っているんで、単語も、iPad 一つで、発音の確認ができたりなど、教員が活用する分には効果的だな、と思いました。あと、みどり台中学校の時には、市長さんもいらっちゃったと思いますが、音楽の琴の演奏をやっていて、それを撮影して、自己評価する、というような、それが一番あの授業の中では効果的だったのではないかと思います。それ以外の、「みどり台中学校をよくするには」、というような発表もありましたけれども、あれは iPad はなくてもいいのではないかと、むしろ逆効果ではないのか、と、iPad の使い方ひとつで良くもなるし、意味のないものにもなる、という印象を受けています。

山田市長

確かに、課題提示をして、コミュニケーションを取ってやり取りするところでは本当にいいツールだな、と感じておられて、一方で、今おっしゃったとおり、課題にもあがっているとおり、効果的な使い方ということですかね。そこはこれからの課題になるのかな、と思います。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

私はみどり台中学校を見させていただきました。良かったところとしては、先生の授業の準備が、私の小学校の時のことを思い出すと、オーバーヘッドとかで、先生が図形を手で書いてきたんだな、ということがありましたけれども、それを iPad の中ですぐに準備ができて、すぐに提示できるということは、先生方も準備の点では楽になられたんだろうな、というよ

うに思うのですが、実際に子供たちと画面共有をしたりするときの接続、通信障害ですか、そういう時のタイムラグによって子供たちが集中できていない、私も見ていて、こんなに時間がかかるのか、どうなっているのかな、となると、その部分で、長くない授業時間がもったいないことになるな、とは思ったのですが、業者さんが来ていらしたということで、そこはモデル校であるからの今の状態であって、今後改善されていくのだろうか、とは思ったのですが、そういう部分、また、ディスカッションをする時間で、子供たちは、せっかく目の前にいるのに、画面ばかりを見て、画面の中でディスカッションしているのはどうなんだろう、と。目の前にいるのに、きちんと対話での班での話し合いをしたほうがいいだろうに、画面を見ている時間の方が長くて、それは学校にせっかくみんなが集まっているのに、やる必要があるのかな、と、やはり使い方で全然違ってくると思いました。

今、娘が自宅で zoom で語学の勉強を、カナダの先生に教わっており、なんて便利な時代になったのだろう、と思います。でもそれは、心身ともに成長した人が画面の中でやりたいことを、やりたい勉強をやっているからできるんだろうな、と、娘を見て思うのです。小学校はなかなか、使い方を限定してあげないと、わざわざ入れた意味がなくなってしまうので、これからの見極めになるのかな、と感じました。

山田市長

やはり、メリットとデメリットがあって、今おっしゃっていただいたのは、せっかく人と人がリアルで集まっているのに、画面越しに会話をしている、相手の目を見ずにコミュニケーションをしている、ということは、リアルはリアルで大事にしたい、ということですね。なるほど。ありがとうございます。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

モデル事業として、4月から始まったわけですが、やはり皆さんがおっしゃったとおり、使い分けというか、授業によっては、例えば動く、体育の授業、それから音楽で声を出して歌う、英語でお話をするということでの iPad の活用は大変いいと思います。それから、社会では、教科書で地名だけ、絵だけで見ても分からない場合、動くような画面で、例えば遠くの地名、ニューヨークを検索すると、その地域のことを見ることができるので、そういう使い方はとてもいいと思いますね。それで、先生方も大分慣れてきたと思うのですが、生徒たちも同じなのですが、開くのに時間がかかったり、そういうことがスムーズにできるようになればいいな、と思います。時間のロスが少し出ているのではないかと心配しておりました。先ほど、画面で見たものは、iPad で撮ったものをホワイトボードとかテレビとかで、皆で共有できるということはすごくいいことだと思っております。やはり、使い方を早く覚えて、授業がスムーズに行くことを願っております。

山田市長

情報共有とか、コミュニケーションという部分では非常に良いけれども、不具合による時

間のロスとか、やはりプラスマイナス両方ある、ということだと思います。

今、モデル校での公開授業を見ていただいたの感想ですが、これについて教育長いかがでしょうか。

瀧澤教育長

私は課題としても上がっている、効果的な活用としては、資料提示は本当に効果的だと思います。私は学校現場の時に、社会科の時間に、やはり社会科の時間だと学年が上がるにつれて現場に行けなくなることが多いので、視覚的に訴えるものが必要だという考えで写真を使ったのですが、昔だとリバーサルフィルムで写真を撮って、写真屋に出してスライドを作ってもらって、教室を暗くして映写機で映す、という使い方をしていました。今だったら iPad で写真を撮って、その場ですぐに見せられる、ということで、そういう面でも先生方にとっては非常にいいアイテムの一つではないかと思います。反面、先日県の方で iPad を使う頻度の調査がありました。毎時間使っている、毎日使っている、週に何回使っている、というような調査があったのですが、私はそういう調査はやめてほしいと思っています。いかにもたくさん使うことがいいことだ、というように捉えられかねない。使わなければならないんだ、というプレッシャーは必要ないと思います。ただ、今年特に難しいと思ったのは、全員が持ったのが今年初めてで、先生方も初めてなので、ある程度スキルを身に付けるための時間が必要だと思うのです。例えば、自転車を預けられても、乗れなければ何も使えませんので、ある程度練習して交通ルールを守れば、必要な時に自転車が使えますが、iPad も今、子供たち比較的使えますが、スキルを身に付ける時間というのが必要ですので、この授業で必要な、と思っても、使わせないことには慣れない、慣れてから初めて必要な時に使える、ということになります。私が今必要だな、と思っているのは、来年度以降、1年生から中学3年生までの間で、どういう授業で使って、どういうスキルとか、情報リテラシーを身に付けていくのか、カリキュラムを考えて使わせていかなければならないのではないかと。もちろん、ガチガチのカリキュラムではなくて、学校で、先生方の考えで、弾力的に使っていただいていると思うのですが、その辺を、来年度までモデル校の取組がありますので、その辺を視野に入れて取り組んでいただけたらいいのかな、と思います。

山田市長

ありがとうございます。

カリキュラム化していくということで、一定のお考えが出てきましたけれども、これからは今のモデル校の感想から出てきた課題やいいところ、というところも含めて、先ほど、資料の方でも、操作方法の習得であるとか、不具合の発生の対応、効果的な使い方ということで挙げられておりました、皆さんからの感想もそれに沿ったような形で出されておりますけれども、今後の GIGA スクールの取組について何かご意見があればいただきたいと思います。

佐藤委員お願いします。こういうことが課題なので、こうだといいな、ということでも結構です。

佐藤教育長職務代行委員

GIGA スクール構想の前に、学力とは何か、ということをもう一度考えなければならないと思います。とても効率が良くなったということはあるのですが、例えば授業をスムーズに進めるために、プリントを配って、書き込んで、というような感じで、流れはスムーズですけれども、ノートをしっかり取るとか、ノートに自分の考えをまとめるとか、そういうような学習がおろそかになっているとか、軽視されているのではないかということで、昔から「剝げ落ちる知識」という、大学入試が終わったら、そこがピークで、あとは忘れていく、と、そういうことがありますけれども、剝げ落ちてもいいのですが、その後何か残るのか。しっかりと自分の考えをまとめる力とか、自分の体験と結び付けて、ここは分かって、ここはまだ分からないから、ここはしっかりと勉強する、という振り分けとか、そういう力がちゃんとつけられていくのだろうか、ということがとても不安なのです。とても便利で、書かなくても済む、ということがありますが、キーワードを見て答えを出すというようなことが習慣になっていって、そういうことがなくて、本当に自分の考え、伝えたいことをしっかりとまとめるとか、そういうことを重要視しなければならないのではないのかな、と思います。iPad を使って、それについてきちんと説明できる力とか、プレゼンテーション能力ということで、そこを重視したような指導の仕方に時間をかけてやっていただけたらいいのですが、ただアイデアを発表してはい、終わり、というようなことがあるとまずいな、と思いました。高館小学校の時に、「高館をよくするために」ということで、イチゴ摘み体験とか、産直市場とかいろいろ出ましたけれども、本当に自分たちが、次にはどういう段取りで、どういう課題があって、とか、そういうことを深めて考えていって、小学校 6 年生なりに一つ、こういうことができたね、と、そこまでいけば本当の学習ですけれども、ただ思い付きを言って終わり、ということでは何の深まりもないな、と。学力とは、生きる力とは何なのかな、ということをもう一度考えながら授業をやった方がいいな、ということを感じておりました。

山田市長

大変深い、根本にかかわるお話をいただきました。非常にありがたいお言葉だと思うのですが、おそらく、ノートを取ることで善、ではないのですが、ノートを取ることで、自分の頭の中に入って、考えることで、自分で組み立てをして、想いをどう伝えていくか、ということにつながるということだと思います。ただ、パッと画面に映ったものをみて、分かった気になっているということは、「剝げ落ちる知識」ということなので。一方で、これからの時代、iPad を含めた、ICT、機械を使っていかなければいけないこともあると思いますので、その辺の歩合、ですよね。非常に深いテーマをいただきましたけれども、荒井委員はいかがでしょう。

荒井委員

今思い出しましたが、私が小学校の頃に、特別な教室があって、机にボタンが埋め込んであって、プログラム学習、アナライザーがあって、子供心に、おもしろそうだな、先生やってくれないかな、と思ったことはあったのです。でも、その後の研究などをみると、すぐに

飽きる、と。それで、広がらなかった、という総括がなされているんですね。この、GIGA スクールに関して、最初は子供たちが興味を持つ、おもしろそうだな、と。この段階は当然そうなのですが、いずれそれは、それだけでは飽きる、というのが目に見えておまして、子供の興味だのみでやっていくと、同じ轍を踏んでしまいかねないと思って伺っておりました。その時に、学力に関して、単に答えを出すだけの、芸を仕込むような教え方ではだめではないか、という批判がなされたように読んだ覚えがあります。そういうところを超えて、ツールとしては、いろんな使い方ができると思いますので、そういったところを上手く使っていく必要があるのかな、と思っております。例えば、データを保管したり、検索したりすることが飛躍的に簡単になっていると。しかも、場所を取らない、というのがデジタルとしてのメリットなのかな、と思います。とすれば、その学習内容を、個人ごとに、とか、クラスごとに、保管することがすごく簡単になるはずで、先ほどの琴の使い方にしても、何かの使い方にしても、映像にしても、取っておくことができ、じゃあ、自分が、今、この場でこうだった、というだけではなくて、ひと月前は、琴の演奏がこんなに下手だった、みたいなことも振り返ったり、そういうような、学習の進行状況が自分で把握できるようなものに、いわゆるポートフォリオのようなものが充実できると、自分の歩みみたいなものが、より明確に把握でき、じゃあ、次はこうしよう、ということを目指しやすくなるのではないかと、思っております。

山田市長

ICT の特性を生かした使い方、ということですよ。データの保管とか検索とか。それは一つありますよね、答えを出すだけの教え方ではなくて。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

先ほど佐藤委員がおっしゃったように、私もそういう考えで、ノートにとることを忘れてしまうのではないかな、という心配はあります。それがデメリットかな、と思います。やはり、自分の考えをきちんとまとめるということが大事な、と思っております。何か月か過ぎましたけれども、来年度 iPad を使って、どういう感想を得たか、という作文を生徒たちに書かせるというのもいいのかな、と思いました。書くことを忘れさせてはダメかな、と思っております。やはり、メリハリ、使う時は使う、使わないで全部手書きで授業を受ける、とか、メリハリをつけた授業を取り組んでいただきたいと思います。今、世の中が、毎日激しい変化ですよ。事件も起きますし、事故も起きますし、こういう社会の中で活躍できるような強い子供たちに育てていくために、iPad をいかに使っていくかというのもこれからの課題なのかな、と思っております。

山田市長

ありがとうございます。子供たちに感想を書かせてはいかがか、というアイデアをいただきました。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

もう、ICTを使わない、という方向にはいかないで、世の中が、学校だけではなくて、ということなので、やっていかなければいけないのしょうから、モデル校はあと1年、モデル校としての苦勞が今後もついていくのだろうな、と思うのですが、まずは先生方からメリット、デメリットを把握して、こういうふうに行けばいいんだ、というものがあれば、子供たちは素直についてくると思うので、この3校の先生方はご苦勞になるかと思いますが、ぜひいい方向になるように検討して、いい使い方をしていただけたらいいな、と思います。

山田市長

ありがとうございます。ちょっと、先生はプレッシャーですね。

みどり台で不登校生徒に使ったり、など、ICTだからこその学びというか、教え方というか、その辺についてアイデアだったり、ご意見だったりということはありませんか。こういう使い方をすれば良くなる、というような。

佐藤教育長職務代行委員

普通には使えます。私も2年間オンライン授業をしましたが、普通に画面の前で、実物を持ってきて実験を実際にやって見せて、こういうふうに、今の体験を生かして簡単に解けるんだよ、ということをやって、その後で問題を解かせてみせる。例えば公園のシーソーや、天秤のつり合いの実験をして、から画面上の問題を解かせると、あっという間に解けるので、ああ、そうなんだ、となって普通の教室の授業を持ち込めることは持ち込めます。それは、完全に臨時休業になった場合、オンライン授業でやる場合ですけれども、教員の方の工夫というか、いろんなデータ、ノウハウを教員の方で蓄積して行って、いつでも使えるような経験を積んでいけば、普通の教室でも、必要なところだけ選んで、ということもできると思いますが、今のところ、荒井先生が言ったとおり、自分の学習の記録をしっかり取るとか、自分のパフォーマンスを期間をおいて記録して、成長を捉え、記録しておくとか、あるいは自分のノートとか、友達の素晴らしいノートを撮っておいて、それを生かして使うとか、あるいはプレゼンテーションのためのパワーポイントのようなスライドを作って、実際本当にきちっと、原稿を読まずに絵を見て伝えられるように練習するとか、そういう形であると、今後にふさわしい力がつくのかな、と思います。

山田市長

はい、視覚に訴えるやり方、プレゼン力、データの保管、検索、そういった特性を生かして、ということですが、では、教育長、次年度に向けてまとめをお願いします。

瀧澤教育長

不登校の話が出ましたが、まだ限定的ですが、不登校の子については、はなもも教室があっ

たり、別室登校があったり、たくさんのチャンネルを作ってあげた方がいいと私は思っているんです。学校にも、はなももにも来れないけれども、オンラインだったら人と繋がれる、という子供がいたら、積極的に活用して、少しずつ心を開くような使い方ができれば、これは来年度にかけても、ぜひ試行していききたいな、と思っております。

また、私がいいな、と思うのは、自分を客観的に見ることができる、琴の演奏であったり、あとは前に見た体育のマット運動を動画で撮って自分で見ることができる、鏡の前でやるぐらいしかできなかったことができる、というのは、非常にすごいと思います。ただ、先ほど他の委員さんもおっしゃっていたとおり、子供にどこまで使わせるのかというのは、大人と違うと思うのです。例えば、文書を活字で見ると、タブレットで見ると、活字を目で追って見ていった方が、きちんと頭に入る、そういう力、あるいは考えながら書く、という力が、ある程度小さいころから身につけている大人がタブレットを見るのと、それがまだ未成熟な子供が使ってしまうのでは、違うような気がします。

もう一つ、違う観点からですが、先ほど不具合があったときの対応ということがありましたが、授業中、想定外のことが起きるのは日常茶飯事のことなのです。例えば、こう聞けばこう答えるだろう、と思っても、子供は全然違うことを言うこともありますし、あるいは実験が上手くいかないこともあります。大事なことは、授業のねらいと組み立てを先生がどれだけしっかり持っているか、授業力があれば、仮に iPad に不具合があった時に、どう対応できるのか、授業をそこで中断するのではなくて、授業の組み立てを考えていって、応用力ですとか、そういった力を持っていればいいと思うのですが、それで授業ができなくなるようでは困るな、と思います。

山田市長

大変厳しい意見ありがとうございました。

それでは、この件についてはよろしいでしょうか。他にありますでしょうか。よろしいですか。

以上で、この件につきましては終了とさせていただきます。

それでは、次の議題に移らせていただきますが、出席者入れ替えのため暫時休憩とさせていただきます。

(出席者入れ替え)

山田市長

それでは、再開いたします。次に、下増田公民館と下増田児童センターの合築についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

大澤次長兼生涯学習課長

それでは、下増田公民館の合築の関係ですが、資料は用意しましたが、今日は模型を用意してございますので、この模型を使いまして説明したいと思っております。生涯学習課の佐藤課長

補佐から説明いたします。

(出席者、模型を囲み、模型により説明を受ける)

佐藤生涯学習課長補佐

こちらが、プロポーザルで1位になった設計でございます。増田川のところに敷地がございまして、こちらの方に建物がございまして、鉄筋コンクリート2階建てということで、避難所、避難場所は屋上に避難できるように、あるいはテラスに避難できるように設計されておりまして、外階段がございまして、こちらは庇ということで、この下で人々が集ったり、あるいはお店を出したりとか、そういう工夫ができるような形を考えております。子供たちはグラウンドの端を通ってここから入っていくような形で、逆に公民館の利用者は駐車場50台がございまして、こちらから中に入るようにしておりました。

現在の下増田公民館のホールが狭いので、住民の要望、期待が大きかったのはホールでございました。ホールが500㎡ということで、この中には舞台や緞帳を設けまして、しっかりと発表できるように、あるいは今までできなかったバレーボール、あるいはバドミントンなどの軽運動ができるようにしております。

山田市長

500㎡というのは、どの位の広さでしょうか。

大澤次長兼生涯学習課長

愛島公民館ぐらいです。

瀧澤教育長

フロア部分が同じぐらいで、そのほかにステージが付くということですね。

大澤次長兼生涯学習課長

そうです。

佐藤生涯学習課長補佐

また、ここに三角形がございまして、軽量トラスト構造ということで、工期を短縮するために合理的な設計になっておりました。令和5年5月オープンという目標がございまして、なるべく時間がかからないような工法、かつ安全な工法というところに力を入れております。

また、2階部分は公民館でございまして、避難所機能ということもあり、浸水しない部分に大会議室、小会議室、和室、調理室を配置してございまして。会議室にはスクリーンやプロジェクタ、ホワイトボードを置くことによって、しっかりと学習できるような機能をつけてございます。

山田市長

防災倉庫はどこにありますか。

佐藤生涯学習課長補佐

ここの、壁がありますが、この中になります。

瀧澤教育長

ここから屋上に上がることもできますか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい。可能です。

山田市長

調理室と防災倉庫はそんなに離れていないですか。

大澤次長兼生涯学習課長

はい。ここが吹き抜けになっておりますが、隣り合わせになります。

洞口委員

エレベーターはどこに付けるのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今のところこの辺りを計画しております。

山田市長

公民館利用者は駐車場から入り、子供は小学校側から入ということで、1階が児童センターですね。

佐藤生涯学習課長補佐

そうです。

瀧澤教育長

ここのテラスには、屋根はかからないのですか。

大澤次長兼生涯学習課長

ここないです。ここは延べ床面積には入らない、ということです。

佐藤生涯学習課長補佐

和室の方にはテーブル、椅子を置けるように40㎡、会議室が30㎡で、防音設備をつけて、カラオケや軽音楽ができるように設計の段取りを組んでいるところでございます。

また、エレベータから食材を搬入しまして、調理室で調理をして、この会議室やテラスを使いながら食べるなど、そのような利用ができるかな、と考えております。

そして、「道」というのがこの部分でございまして、この部分で大人と子供が交流できるようにというのが、工夫でございます。具体的には、閑上公民館のように、様々な形の椅子やソファを準備し、Wi-Fiを整備し、本を読んだり、学習ができたり、あるいは地元の方は、子供たちと例えば昔遊びとか、将棋などをやる、などの利用も想定してございます。

この模型は事務室が1室ですが、しっかりと管理するために、こちら側に公民館の事務室、こちら側に児童センターの事務室ということで、1階玄関側に2つ用意したいということで設計しているところでございます。

大澤次長兼生涯学習課長

ももとの提案では、ここの部分がホールの倉庫になっているのですが、事務室を分けた方がいいのかな、ということで、今、その辺に、公民館の事務室を作れないか、ということで検討しております。

山田市長

公民館は、1階に事務室があつて、2階を貸す感じ、ということですね。なるほど。

佐藤生涯学習課長補佐

そしてここ、上の方からトップライトですとか、高い所の窓から、日当たりを確保したいということで、ちょっと大きいのですが、ここから光を取り込みたいということです。

また、児童センターは、1画にまとめて配置することによって、セキュリティ上、管理がしやすい形になっております。クラブ室は、我々の要望は70㎡で6つ、集会室まで入れて6部屋確保してほしいということで要望しているところでございます。

また、子育て支援室を40㎡、専用室15㎡を事務室の近くに、また、事務室に相談室をつけたいな、と考えておりました。また、ここにウッドデッキを設けまして、園庭の方に子供たちが日当たりのいい所から出て、遊べるように、と考えております。遊戯室は大きく作っておりますが、120㎡ぐらいで、空いている時間はこちらのホール、両方で使えるようにしたいと考えております。

山田市長

120㎡だとどの位ですか。

佐藤生涯学習課長補佐

この部屋よりは広いと思うのですが。

瀧澤教育長

ホールが 500 m²でしたか。

佐藤生涯学習課長補佐

舞台込みで 500 m²です。

山田市長

500 m²に対して 120 m²、この模型だともっと大きく見えますが。

佐藤生涯学習課長補佐

こちらは、面積を指定しないで設計していただいているので、これよりは小さくなって、クラブ室等が大きくなるイメージです。

山田市長

そうすると、ホールで遊ばせてほしい、となりそうだけれども、平日の午後はどうですかね。

瀧澤教育長

貸し館との関係でどうなりますかね。

大澤次長兼生涯学習課長

通常のボール遊びができるぐらい、通常の、閑上児童センター位の面積は確保しています。

山田市長

閑上位はあるんですね。

齋藤こども支援課長

バドミントンをするぐらいの広さはあります。

山田市長

閑上児童センターと同じ位の広さはある、ということでもいいですか。

齋藤こども支援課長

若干、一回り位は小さくなると思います。

瀧澤教育長

こども支援課として、もっと広くしてほしいというような要望はありますか。

齋藤こども支援課長

提案ですので、特に今のところは異論は出ておりません。

洞口委員

もう一回りほしい感じですね。

齋藤こども支援課長

そうなると建築費もかさんでしまうこともありますので。

佐藤生涯学習課長補佐

今回、自由な提案を求めたい、ということで、あえて面積を指定せずに様々な発想からいただいたのですが、この提案が一番コンパクトでございました。

また、窓とか、視認性をよくすることによって、外の人達が立ち寄りやすく、なおかつ防犯上も十分配慮できるようにというのがコンセプトでございます。

大澤次長兼生涯学習課長

ですから、これが完成形というわけではありません。

山田市長

わかりました。では、いったんご着席ください。

ただいまご説明いただきました。複合施設ということではあるのですが、教育会議ということで、公民館を中心に議論をしていきたいとは思いますが、この複合施設についてのご意見・ご感想があればお願いします。

では、地元の洞口委員をお願いします。

洞口委員

今拝見して感じたことは、エレベーターが付く位置から、調理場が遠いのではないかと思います。物を運ぶときに、ずいぶん台車で運ばなければならないのではないかと、距離的にどうなるでしょうか、というのがまず一つ。それから、雪・雨には、テラスはずぶぬれになるのですかね、雨の時は利用できないのですかね、というのがあります。

山田市長

テラスの庇が必要ではないか、ということですね。

浅野委員はいかがでしょう。

浅野委員

先ほど、児童センターの遊戯室が狭く、公民館のホールはどうか、という話がありました。下増田公民館は、今まで体育的なことができるホールがなかったので、どの位の方がそ

ういうことをしたいのか比較できず、予想つかないとは思いますが、私が公民館に勤務していた時のことを思えば、午後4時から7時までではほとんどホールを使わないことが多かったので、そうなるとう児童センターの子供たちが使うことはできる、空きの時間なのかな、と思いますので、毎日ではなくても、午後の時間帯は子供たちが利用できるかもしれないな、と思いました。

それから、事務室を分ける、というのは、確かに結構大きな建物になるので、学校側、駐車場側できちんとう見守りの体制ができるようにした方がいいな、と思いますので、いいアイデアだと思いました。

山田市長

公民館のホールを、児童センターとして使えるような、例えば、曜日分けるとか、今は狭いホールなので、公民館のホールを使っている人はいないと思いますが、各種団体、午前午後、他の公民館はほぼ埋まっていますよね、しかも、立派なものが出て使える、となれば、おそらく何々愛好会、みたいなのところから、使いたい、という話が出てくるのが予想されるし、むしろそうなることで地域が活性化されてくると思うので、その一方で、児童センターの遊戯室、児童の数からして狭いと思います。その辺を、児童センターの遊戯室をそのまま、ということであれば、週に何度か、大きい、広いホールを使えるようにするとか、その辺、公民館とう児童センターの連携が必要なのかな、と感じました。

荒井委員いかがでしょうか。

荒井委員

今市長さんおっしゃったとおり、今だけの問題なのかもしれませんが、子供は多いので、今の段階で拝見していても、外で遊んでいる子供がとて多くて、遊具に張り付いている子供たちが多いので、外の整備も必要なのかな、と思いました。

それから、土手は階段を作ることはできるのでしょうか。土手をいじってはダメだ、という話をどこかで聞いたような気がするのですが。

山田市長

これは、階段は作るのですか。

佐藤生涯学習課長補佐

すみません、土手の階段はイメージでして、そこまではやらないつもりです。

荒井委員

向こう側は何も作れないと思いますし、逆に作ったら危ないと思います。土手にはいかな方がいいのかな、と思います。

山田市長

そうですね。
佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

楽しみだな、という感想です。物をつくるということで、楽しみなのですが、公民館と児童センターの合築なので、交流というソフト面を充実させていただいて、地域の高齢者の生きがい、子供たちと触れ合って、役に立ててよかったな、と思えるような、イベント・企画を考えていただければ、下増田の活性化につながるのではないかと思います。

山田市長

なるほど。ありがとうございます。その辺、何か考えていることはあるのでしょうか。

大澤次長兼生涯学習課長

今の委員さんのご意見にもありましたが、今年の下増田公民館まつりですが、下増田児童センターのこどもまつりと同時開催ということで、今後の合築を見越した形で、日程を合わせて開催したということもございます。そういったことを、通常の公民館、児童センターの事業の中でも、施設面でも、運営面でも、協力して行っているということがございます。これからは建物も一つになりますので、さらに連携しながら進めていけるような公民館を考えております。

山田市長

そうですね。男の学び舎さんや、ワッショイDEN×3さん、とか、盛んな地域ですので、地域が子供たちのためにということも含めて、頑張っておられる地域なので、地域の特性を最大限生かせるような仕掛けをお願いしたいところです。

そのほか、合築を進める上で課題とか懸案とか、こうあったらいいな、というような希望はありますか。

洞口委員、いかがでしょうか。

洞口委員

この合築の建物のイメージの色などは決まっているのでしょうか。

山田市長

その辺、公民館を作り上げていく上で、進め方、というか、地域への説明等はどうなっているのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい、12月中旬に一度説明会を持ちまして、実際の間取りに合わせた形で住民の皆さんの意見をいただきたいと考えてございました。

また、1月下旬から2月上旬位に、懇話会で最終的なデザインを確定しますが、進捗状況等もお知らせしながら、意見を取り入れていきたいと考えております。

山田市長

その説明会は、地元の方ならだれでも参加できるのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今は懇話会に対して、という形で考えております。

山田市長

メンバーはどのような方でしょうか。地域の町内会長さんとか、区長さんとかのメンバーでしょうか。

齋藤こども支援課長

児童センター関係では、地域活動クラブ、PTAのメンバーも入ります。

山田市長

いずれ、令和5年5月開館を目指しているということで、教育長、これまでの話を受けていかがでしょうか。

瀧澤教育長

先ほどの説明に、外からの非常階段がありましたが、やはり、震災の時に浸水したところですし、下増田の子供たちも5名亡くなっており、学校も防災教育に力を入れておりますが、非常階段が本当にあそこがいいのか、とか、1か所でもいいのか、とか、駐車場側に必要ないのか、とか、防災面で少しこれから見直す必要があるのかな、と思っております。また、話題にも出ましたが、せっかく合築するので、地域活動と児童センターの活動、それから学校も隣接しておりますので、学校の教育活動との交流とか、それが相乗効果をもたらすように、これからソフト面でどうやっていくか、学校も交えて協議していく必要があるのかな、という感じがしております。

ホールの問題も出ましたが、せっかく作るので、あえて使わなくてもいいのかもしれませんが、放課後であれば学校の体育館も空いておりますので、そういったところの活用も、今度は道路を横断しないので、かなり自由にできるのではないかと思いますので、運用とか、そういうところで工夫していけるのではないかと思います。

それから、地域学校協働活動が、下増田は本部が公民館にあるので、それも活用していくと、何かユニークな活動ができそうな気がします。

山田市長

ありがとうございます。本当に楽しみな施設ですので、地域の声をよく聞いて、合築に向

けて進めていただきたいと思います。

そのほか、皆さんからご意見・ご要望・課題、皆さんからありますでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

非常時には避難所になると思うのですが、太陽光発電はどれぐらいの電力というか、どれぐらい対応できるということで想定しているのでしょうか。

山田市長

なるほど。太陽光発電について、いかがでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今考えてございますのは、基本的には通常の発電機で非常用の電源を確保する部分でございます。もう1つが、現公民館に、太陽光発電の施設がございますので、それを移設できないか検討しているところでございます。すみません、太陽光の容量については、今手持ち資料がございません。

大澤次長兼生涯学習課長

現在、太陽光を載せている施設はありますが、十分な電力を供給できるということではございません。最低限のコンセントの利用ですとか、最低限の照明に電源を供給するという程度で、今は賄っております。また、非常用のバッテリーも備えておりますので、例えば若干曇っていても、使える、という状況にはなっております。

山田市長

閑上小中学校だと、あそこに設置している太陽光発電で、1日か2日持つ、というような話を聞いたことはあるのですが。

瀧澤教育長

市役所にもあるかと思いますが、赤いコンセントが太陽光と繋がっていて、はっきりした時間は分かりませんが、太陽光をつければ、一定の時間、停電になっても使えます。

山田市長

その辺、調べていた方がいいかもしれません。防災の面で、こういうことに取り組みます、ということをしっかり説明できるようにしておきたいと思います。

他はよろしいでしょうか。

それでは、事務局は本日の協議内容を十分に取り入れていただき、事業に取り組んでいただきたいと思います。

総合教育会議はこれまでとさせていただきます、以上で本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

その他、事務局から何かありますでしょうか。

芳賀教育総務課長

特にございません

山田市長

ないようですので、以上で終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。事務局へお返しします。

芳賀教育総務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第14回名取市総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻

午前10時40分

令和3年度 第14回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和3年11月30日（火）

2 会議の場所

名取市役所3階 議会棟第3・第4委員会室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 佐藤 俊隆

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 荒井 龍弥

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

菊池教育部長、鈴木理事兼学校教育課長事務取扱、大澤教育部次長兼生涯学習課長、芳賀教育総務課長、小松文化・スポーツ課長兼復興ありがとうホストタウン推進室長兼市史編さん準備室長、齋藤こども支援課長、高橋指導主事、森下指導主事、佐藤生涯学習課長補佐、宇田教育部企画員兼教育総務課長補佐、菅原教育総務課教育総務係長

7 議題

(1) GIGA スクール構想(モデル校の取組)について

(2) 下増田公民館と下増田児童センターの合築について

8 開会時間

午前9時30分

9 会議の概要

芳賀教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に入ります前に、資料の確認をお願いします。第14回名取市総合教育会議次第と、出席者名簿をご用意させていただいております。不足がありましたらお教え願いたいと存じます。よろしいでしょうか。

また、本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ第14回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症も、ようやく落ち着いてきたようにも感じておりましたが、ここにきてオミクロン株という、新たな変異株が出て、大変憂慮しているところです。

いずれ、少しずつかつての生活を取り戻していけるように、できる対応を、教育現場ともしっかり連携をして進めていきたいと考えているところです。

本日の総合教育会議のテーマは、「GIGAスクール構想（モデル校の取組）について」と「下増田公民館と下増田児童センターの合築について」ということで、第12回の総合教育会議でも同じテーマではありますが、その後の経過等について情報共有をさせていただきながら、さらに議論を深めてまいりたいと考えているところでございます。ぜひ、皆さんの忌憚のない意見をいただければと思います。今日はよろしくをお願いします。

芳賀教育総務課長

それでは、3の議題に入ってまいります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めていただきます。山田市長、よろしくお願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしくお願いいたします。

まず初めに、議題（1）GIGAスクール構想（モデル校の取組）についてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

鈴木理事兼学校教育課長事務取扱

学校教育課の鈴木でございます。お手元のプレゼン資料、黄色いスライドが載っているものと、別紙1、令和3年、4年の名取市のiPad活用モデル事業、以上の資料になります。これから指導主事が、モニター画面でプレゼンをしながら説明を申し上げます。黄色いスライドの資料を使いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

森下指導主事

皆様、こんにちは。学校教育課の森下博史です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

では、GIGA スクール構想（各校の取組）について、説明いたします。

今年度から、高館小学校、相互台小学校、みどり台中学校において、名取市 iPad 活用モデル事業を展開しております。本日は、授業における iPad の効果的な使い方について説明いたします。

初めに、iPad の効果的な使い方として、課題や資料等を提示する場面での活用が挙げられます。授業の導入で、本時の目標や課題を児童生徒に提示することがあります。また、授業の中で、資料等を提示することもあります。これまでは、黒板に書いたり、掲示物を作成したりして、課題や資料等を提示していました。これが、iPad の導入により、課題や資料等の作成が容易になりました。

こちらは、英語の授業です。iPad で作った英語の課題を大型モニターに表示したものです。

こちらは、理科の授業です。iPad で撮影した実験器具の完成した形を大型モニターで、児童生徒に示しています。こちらは、算数の授業です。教員が iPad で作成した目的地までの経路の資料を児童生徒の iPad に送信したものです。児童生徒は送信された資料を自分の iPad で見ることができます。児童生徒が資料に書き込むこともできます。

次に、児童生徒の意見や考えを共有する場面での活用が挙げられます。新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。各学校では工夫した実践が行われています。授業では、児童生徒が自分の意見や考えをもとに、グループで話し合う場面が多く設定されています。これまでは、黒板やホワイトボード、画用紙などを使って、グループやクラス全体で一人一人の意見や考えの共有をしていました。これが、iPad の画面上で、児童生徒の意見や考えの共有ができるようになりました。

こちらは、英語の授業です。Jamboard というアプリを使って、英文をグループで作成しているところです。

こちらは、算数の授業です。iPad で撮影した児童生徒のノートなどを、大型モニターに表示することができます。大型モニターに表示されているのは、赤丸をつけた iPad で撮影した児童のノートです。この機能をエアドロップといいます。Wi-Fi を使わずに簡単に送信する機能です。他の児童生徒の iPad にも送信することができます。

次に、動画を記録する場面での活用が挙げられます。これまでは、ビデオカメラなどで撮影したり、友達から教えてもらったりして、自分の活動の様子を確かめていました。このため、事前の準備が必要でした。これが、児童生徒が自分の活動を iPad で記録できるようになりました。

こちらは、理科の授業です。電池で風車を回す実験の様子を iPad で記録しています。

こちらは、音楽の授業です。児童生徒がお互いに、箏の演奏を iPad で動画に記録しています。記録した動画は iPad で見ることができます。これにより、自分の技能を正確に確認できるようになりました。

こちらは、英語の授業です。英文の音読練習をお互いに iPad で動画に記録しています。

こちらは動画をご覧ください。

（英語の授業の様子を動画で視聴）

次に、アンケートを実施する場面での活用が挙げられます。これまでは、アンケート用紙

を準備し、児童生徒が記入していました。その後、回収、集計を行い、結果を発表していました。これが、大型モニターの2次元バーコードをiPadで撮影するだけで回答ができるようになりました。撮影すると、iPadにアンケートが表示されます。児童生徒は、その画面に入力するだけです。児童生徒が入力すると、自動で集計をします。自動で集計するので、このように、その場で集計結果の発表もできます。

次に、インターネットでの調べ学習をする場面での利用が挙げられます。これまでインターネットでの調べ学習は、コンピュータ室で実施していました。これが、iPadの導入により、普通教室でいつでもできるようになりました。

その他、iPadのアプリを活用した授業が行われています。

こちらは、音楽の授業です。アプリを使って作曲している様子です。このように、iPadが効果的に活用されています。

一方で、課題も見えてきました。

モデル校から挙げられた課題は大きく3点あります。

1点目は、iPadの機能やアプリの操作法の習得が必要で、時間を要することです。児童生徒はもちろんですが、教員もスキルの向上が求められます。

2点目は、不具合の発生が予想できないことです。iPad上にあるアプリやインターネットの接続が途中で停止することがあるという報告を受けています。こちらは、業者等と連携しながら不具合の解消に努めていきたいと思えます。

3点目は、授業の中でiPadを使うことが目的とならないことです。授業のねらいに沿ったiPadの効果的な使い方について、今後さらに実践を重ね、検証していく必要があります。

では、モデル校の今後の取組について、3点説明いたします。

初めに、オンライン学習です。高館小学校が10月13日に実施しました。そのときの様子を動画でご覧ください。

(動画で高館小学校のオンライン学習の様子を視聴)

2年生「〇から始まる言葉を答えよう」です。こちらは、担任の先生です。担任が、家にいる児童に対して、問題を出しています。最初は「カ」から始まる言葉を児童が答えています。次は、「ス」から始まる言葉です。担任だけでなく、ほかの児童ともやりとりができます。

次に、不登校支援への活用です。

現在、不登校児童生徒に対する学習支援などが求められています。そこで、iPadを効果的に活用できるのではないかと考えています。その最初の段階として、不登校児童生徒とオンライン形式での交流を行います。みどり台中学校が10月26日の公開授業で実施しました。

最後に、iPadの持ち帰りです。現在モデル校で実施しております。来年度からは、全ての学校で実施する予定です。いずれの取組も、さらに実践を進め、成果と課題を検証してまいります。

これで、GIGAスクール構想（各校の取組）についての説明を終わります。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

初めに、ただいまの説明で確認しておきたい事項や、去る 10 月 26 日にみどり台中学校、11 月 12 日に高館小学校でモデル授業の公開が行われましたが、その感想なども含めて、何かあれば、お願いします。

いかがでしょうか。皆さんご覧になりましたよね。荒井委員いかがでしょうか。

荒井委員

私は高館小学校にお邪魔しました。先生方も、当初、昨年の導入直後よりは操作もスムーズになってきたな、と思います。課題提示とか、教材提示といったところはすごく子供たちにもスムーズに行っていて、ストレスはないような感じがしました。そういう使い方は iPad を上手く使っているんじゃないかな、と考えたところでした。

山田市長

ありがとうございます。佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

iPad の一番の利点は課題提示だろうな、とは思っています。私も 3 年ぐらい毎時間 iPad で課題提示をする、というか、英語の場合だと、教科書を撮影して、本文を拡大表示して、それを見ながら音読をするということで、非常に集中力が高まって良かったり、音声も入っているんで、単語も、iPad 一つで、発音の確認ができたりなど、教員が活用する分には効果的だな、と思いました。あと、みどり台中学校の時には、市長さんもいらっしまったと思いますが、音楽の琴の演奏をやっていて、それを撮影して、自己評価する、というような、それが一番あの授業の中では効果的だったのではないかと思います。それ以外の、「みどり台中学校をよくするには」、というような発表もありましたけれども、あれは iPad はなくてもいいのではないかと、むしろ逆効果ではないのか、と、iPad の使い方ひとつで良くもなるし、意味のないものにもなる、という印象を受けています。

山田市長

確かに、課題提示をして、コミュニケーションを取ってやり取りするところでは本当にいいツールだな、と感じておられて、一方で、今おっしゃったとおり、課題にもあがっているとおり、効果的な使い方ということですかね。そこはこれからの課題になるのかな、と思います。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

私はみどり台中学校を見させていただきました。良かったところとしては、先生の授業の準備が、私の小学校の時のことを思い出すと、オーバーヘッドとかで、先生が図形を手で書いてきたんだな、ということがありましたけれども、それを iPad の中ですぐに準備ができて、すぐに提示できるということは、先生方も準備の点では楽になられたんだろうな、というよ

うに思うのですが、実際に子供たちと画面共有をしたりするときの接続、通信障害ですか、そういう時のタイムラグによって子供たちが集中できていない、私も見ていて、こんなに時間がかかるのか、どうなっているのかな、となると、その部分で、長くない授業時間がもったいないことになるな、とは思ったのですが、業者さんが来ていらしたということで、そこはモデル校であるからの今の状態であって、今後改善されていくのだろうか、とは思ったのですが、そういう部分、また、ディスカッションをする時間で、子供たちは、せっかく目の前にいるのに、画面ばかりを見て、画面の中でディスカッションしているのはどうなんだろう、と。目の前にいるのに、きちんと対話での班での話し合いをしたほうがいいだろうに、画面を見ている時間の方が長くて、それは学校にせっかくみんなが集まっているのに、やる必要があるのかな、と、やはり使い方で全然違ってくると思いました。

今、娘が自宅で zoom で語学の勉強を、カナダの先生に教わっており、なんて便利な時代になったのだろう、と思います。でもそれは、心身ともに成長した人が画面の中でやりたいことを、やりたい勉強をやっているからできるんだろうな、と、娘を見て思うのです。小学校はなかなか、使い方を限定してあげないと、わざわざ入れた意味がなくなってしまうので、これからの見極めになるのかな、と感じました。

山田市長

やはり、メリットとデメリットがあって、今おっしゃっていただいたのは、せっかく人と人がリアルで集まっているのに、画面越しに会話をしている、相手の目を見ずにコミュニケーションをしている、ということは、リアルはリアルで大事にしたい、ということですね。なるほど。ありがとうございます。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

モデル事業として、4月から始まったわけですが、やはり皆さんがおっしゃったとおり、使い分けというか、授業によっては、例えば動く、体育の授業、それから音楽で声を出して歌う、英語でお話をするということでの iPad の活用は大変いいと思います。それから、社会では、教科書で地名だけ、絵だけで見ても分からない場合、動くような画面で、例えば遠くの地名、ニューヨークを検索すると、その地域のことを見ることができるので、そういう使い方はとてもいいと思いますね。それで、先生方も大分慣れてきたと思うのですが、生徒たちも同じなのですが、開くのに時間がかかったり、そういうことがスムーズにできるようになればいいな、と思います。時間のロスが少し出ているのではないかと心配しておりました。先ほど、画面で見たものは、iPad で撮ったものをホワイトボードとかテレビとかで、皆で共有できるということはすごくいいことだと思っております。やはり、使い方を早く覚えて、授業がスムーズに行くことを願っております。

山田市長

情報共有とか、コミュニケーションという部分では非常に良いけれども、不具合による時

間のロスとか、やはりプラスマイナス両方ある、ということだと思います。

今、モデル校での公開授業を見ていただいたの感想ですが、これについて教育長いかがでしょうか。

瀧澤教育長

私は課題としても上がっている、効果的な活用としては、資料提示は本当に効果的だと思います。私は学校現場の時に、社会科の時間に、やはり社会科の時間だと学年が上がるにつれて現場に行けなくなることが多いので、視覚的に訴えるものが必要だという考えで写真を使ったのですが、昔だとリバーサルフィルムで写真を撮って、写真屋に出してスライドを作ってもらって、教室を暗くして映写機で映す、という使い方をしていました。今だったら iPad で写真を撮って、その場ですぐに見せられる、ということで、そういう面でも先生方にとっては非常にいいアイテムの一つではないかと思います。反面、先日県の方で iPad を使う頻度の調査がありました。毎時間使っている、毎日使っている、週に何回使っている、というような調査があったのですが、私はそういう調査はやめてほしいと思っています。いかにもたくさん使うことがいいことだ、というように捉えられかねない。使わなければならないんだ、というプレッシャーは必要ないと思います。ただ、今年特に難しいと思ったのは、全員が持ったのが今年初めてで、先生方も初めてなので、ある程度スキルを身に付けるための時間が必要だと思うのです。例えば、自転車を預けられても、乗れなければ何も使えませんので、ある程度練習して交通ルールを守れば、必要な時に自転車が使えますが、iPad も今、子供たち比較的使えますが、スキルを身に付ける時間というのが必要ですので、この授業で必要な、と思っても、使わせないことには慣れない、慣れてから初めて必要な時に使える、ということになります。私が今必要だな、と思っているのは、来年度以降、1年生から中学3年生までの間で、どういう授業で使って、どういうスキルとか、情報リテラシーを身に付けていくのか、カリキュラムを考えて使わせていかなければならないのではないかと。もちろん、ガチガチのカリキュラムではなくて、学校で、先生方の考えで、弾力的に使っていただいていると思うのですが、その辺を、来年度までモデル校の取組がありますので、その辺を視野に入れて取り組んでいただけたらいいのかな、と思います。

山田市長

ありがとうございます。

カリキュラム化していくということで、一定のお考えが出てきましたけれども、これからは今のモデル校の感想から出てきた課題やいいところ、というところも含めて、先ほど、資料の方でも、操作方法の習得であるとか、不具合の発生の対応、効果的な使い方ということで挙げられておりました、皆さんからの感想もそれに沿ったような形で出されておりますけれども、今後の GIGA スクールの取組について何かご意見があればいただきたいと思います。

佐藤委員お願いします。こういうことが課題なので、こうだといいな、ということでも結構です。

佐藤教育長職務代行委員

GIGA スクール構想の前に、学力とは何か、ということをもう一度考えなければならないと思います。とても効率が良くなったということはあるのですが、例えば授業をスムーズに進めるために、プリントを配って、書き込んで、というような感じで、流れはスムーズですけれども、ノートをしっかり取るとか、ノートに自分の考えをまとめるとか、そういうような学習がおろそかになっているとか、軽視されているのではないかということで、昔から「剝げ落ちる知識」という、大学入試が終わったら、そこがピークで、あとは忘れていく、と、そういうことがありますけれども、剝げ落ちてもいいのですが、その後何か残るのか。しっかりと自分の考えをまとめる力とか、自分の体験と結び付けて、ここは分かって、ここはまだ分からないから、ここはしっかりと勉強する、という振り分けとか、そういう力がちゃんとつけられていくのだろうか、ということがとても不安なのです。とても便利で、書かなくても済む、ということがありますが、キーワードを見て答えを出すというようなことが習慣になっていって、そういうことがなくて、本当に自分の考え、伝えたいことをしっかりとまとめるとか、そういうことを重要視しなければならないのではないのかな、と思います。iPad を使って、それについてきちんと説明できる力とか、プレゼンテーション能力ということで、そこを重視したような指導の仕方に時間をかけてやっていただけたらいいのですが、ただアイデアを発表してはい、終わり、というようなことがあるとまずいな、と思いました。高館小学校の時に、「高館をよくするために」ということで、イチゴ摘み体験とか、産直市場とかいろいろ出ましたけれども、本当に自分たちが、次にはどういう段取りで、どういう課題があって、とか、そういうことを深めて考えていって、小学校6年生なりに一つ、こういうことができたね、と、そこまでいけば本当の学習ですけれども、ただ思い付きを言って終わり、ということでは何の深まりもないな、と。学力とは、生きる力とは何なのかな、ということをもう一度考えながら授業をやった方がいいな、ということを感じておりました。

山田市長

大変深い、根本にかかわるお話をいただきました。非常にありがたいお言葉だと思うのですが、おそらく、ノートを取ることで善、ではないのですが、ノートを取ることで、自分の頭の中に入って、考えることで、自分で組み立てをして、想いをどう伝えていくか、ということにつながるということだと思います。ただ、パッと画面に映ったものをみて、分かった気になっているということは、「剝げ落ちる知識」ということなので。一方で、これからの時代、iPad を含めた、ICT、機械を使っていかなければいけないこともあると思いますので、その辺の歩合、ですよね。非常に深いテーマをいただきましたけれども、荒井委員はいかがでしょう。

荒井委員

今思い出しましたが、私が小学校の頃に、特別な教室があって、机にボタンが埋め込んであって、プログラム学習、アナライザーがあって、子供心に、おもしろそうだな、先生やってくれないかな、と思ったことはあったのです。でも、その後の研究などをみると、すぐに

飽きる、と。それで、広がらなかった、という総括がなされているんですね。この、GIGA スクールに関して、最初は子供たちが興味を持つ、おもしろそうだな、と。この段階は当然そうなのですが、いずれそれは、それだけでは飽きる、というのが目に見えておまして、子供の興味だのみでやっていると、同じ轍を踏んでしまいかねないと思って伺っておりました。その時に、学力に関して、単に答えを出すだけの、芸を仕込むような教え方ではだめではないか、という批判がなされたように読んだ覚えがあります。そういうところを超えて、ツールとしては、いろんな使い方ができると思いますので、そういったところを上手く使っていく必要があるのかな、と思っております。例えば、データを保管したり、検索したりすることが飛躍的に簡単になっていると。しかも、場所を取らない、というのがデジタルとしてのメリットなのかな、と思います。とすれば、その学習内容を、個人ごとに、とか、クラスごとに、保管することがすごく簡単になるはずで、先ほどの琴の使い方にしても、何かの使い方にしても、映像にしても、取っておくことができ、じゃあ、自分が、今、この場でこうだった、というだけではなくて、ひと月前は、琴の演奏がこんなに下手だった、みたいなことも振り返ったり、そういうような、学習の進行状況が自分で把握できるようなものに、いわゆるポートフォリオのようなものが充実できると、自分の歩みみたいなものが、より明確に把握でき、じゃあ、次はこうしよう、ということを目指しやすくなるのではないかと、思っております。

山田市長

ICT の特性を生かした使い方、ということですね。データの保管とか検索とか。それは一つありますよね、答えを出すだけの教え方ではなくて。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

先ほど佐藤委員がおっしゃったように、私もそういう考えで、ノートにとることを忘れてしまうのではないかな、という心配はあります。それがデメリットかな、と思います。やはり、自分の考えをきちんとまとめるということが大事な、と思っております。何か月か過ぎましたけれども、来年度 iPad を使って、どういう感想を得たか、という作文を生徒たちに書かせるというのもいいのかな、と思いました。書くことを忘れさせてはダメかな、と思っております。やはり、メリハリ、使う時は使う、使わないで全部手書きで授業を受ける、とか、メリハリをつけた授業を取り組んでいただきたいと思います。今、世の中が、毎日激しい変化ですね。事件も起きますし、事故も起きますし、こういう社会の中で活躍できるような強い子供たちに育てていくために、iPad をいかに使っていかかというのもこれからの課題なのかな、と思っております。

山田市長

ありがとうございます。子供たちに感想を書かせてはいかがか、というアイデアをいただきました。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

もう、ICTを使わない、という方向にはいかないの、世の中が、学校だけではなくて、ということなので、やっていかなければいけないのしょうから、モデル校はあと1年、モデル校としての苦勞が今後もついていくのだろうな、と思うのですが、まずは先生方からメリット、デメリットを把握して、こういうふうに行けばいいんだ、というものがあれば、子供たちは素直についてくると思うので、この3校の先生方にご苦勞になるかと思いますが、ぜひいい方向になるように検討して、いい使い方をしていただけたらいいな、と思います。

山田市長

ありがとうございます。ちょっと、先生はプレッシャーですね。

みどり台で不登校生徒に使ったり、など、ICTだからこその学びというか、教え方というか、その辺についてアイデアだったり、ご意見だったりということはありませんか。こういう使い方をすれば良くなる、というような。

佐藤教育長職務代行委員

普通には使えます。私も2年間オンライン授業をしましたが、普通に画面の前で、実物を持ってきて実験を実際にやって見せて、こういうふうに、今の体験を生かして簡単に解けるんだよ、ということをやって、その後で問題を解かせてみせる。例えば公園のシーソーや、天秤のつり合いの実験をして、から画面上の問題を解かせると、あっという間に解けるので、ああ、そうなんだ、となって普通の教室の授業を持ち込めることは持ち込めます。それは、完全に臨時休業になった場合、オンライン授業でやる場合ですけれども、教員の方の工夫というか、いろんなデータ、ノウハウを教員の方で蓄積して行って、いつでも使えるような経験を積んでいけば、普通の教室でも、必要なところだけ選んで、ということもできると思いますが、今のところ、荒井先生が言ったとおり、自分の学習の記録をしっかり取るとか、自分のパフォーマンスを期間をおいて記録して、成長を捉え、記録しておくとか、あるいは自分のノートとか、友達の素晴らしいノートを撮っておいて、それを生かして使うとか、あるいはプレゼンテーションのためのパワーポイントのようなスライドを作って、実際本当にきちっと、原稿を読まずに絵を見て伝えられるように練習するとか、そういう形であると、今後にふさわしい力がつくのかな、と思います。

山田市長

はい、視覚に訴えるやり方、プレゼン力、データの保管、検索、そういった特性を生かして、ということですが、では、教育長、次年度に向けてまとめをお願いします。

瀧澤教育長

不登校の話が出ましたが、まだ限定的ですが、不登校の子については、はなもも教室があっ

たり、別室登校があったり、たくさんのチャンネルを作ってあげた方がいいと私は思っているんです。学校にも、はなももにも来れないけれども、オンラインだったら人と繋がれる、という子供がいたら、積極的に活用して、少しずつ心を開くような使い方ができれば、これは来年度にかけても、ぜひ試行していききたいな、と思っております。

また、私がいいな、と思うのは、自分を客観的に見ることができる、琴の演奏であったり、あとは前に見た体育のマット運動を動画で撮って自分で見ることができる、鏡の前でやるぐらいしかできなかったことができる、というのは、非常にすごいと思います。ただ、先ほど他の委員さんもおっしゃっていたとおり、子供にどこまで使わせるのかというのは、大人と違うと思うのです。例えば、文書を活字で見ると、タブレットで見ると、活字を目で追って見ていった方が、きちんと頭に入る、そういう力、あるいは考えながら書く、という力が、ある程度小さいころから身につけている大人がタブレットを見るのと、それがまだ未成熟な子供が使ってしまうのでは、違うような気がします。

もう一つ、違う観点からですが、先ほど不具合があったときの対応ということがありましたが、授業中、想定外のことが起きるのは日常茶飯事のことなのです。例えば、こう聞けばこう答えるだろう、と思っても、子供は全然違うことを言うこともありますし、あるいは実験が上手くいかないこともあります。大事なものは、授業のねらいと組み立てを先生がどれだけしっかり持っているか、授業力があれば、仮に iPad に不具合があった時に、どう対応できるのか、授業をそこで中断するのではなくて、授業の組み立てを考えていって、応用力ですとか、そういった力を持っていればいいと思うのですが、それで授業ができなくなるようでは困るな、と思います。

山田市長

大変厳しい意見ありがとうございました。

それでは、この件についてはよろしいでしょうか。他にありますでしょうか。よろしいですか。

以上で、この件につきましては終了とさせていただきます。

それでは、次の議題に移らせていただきますが、出席者入れ替えのため暫時休憩とさせていただきます。

(出席者入れ替え)

山田市長

それでは、再開いたします。次に、下増田公民館と下増田児童センターの合築についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

大澤次長兼生涯学習課長

それでは、下増田公民館の合築の関係ですが、資料は用意しましたが、今日は模型を用意してございますので、この模型を使いまして説明したいと思っております。生涯学習課の佐藤課長

補佐から説明いたします。

(出席者、模型を囲み、模型により説明を受ける)

佐藤生涯学習課長補佐

こちらが、プロポーザルで1位になった設計でございます。増田川のところに敷地がございまして、こちらの方に建物がございまして、鉄筋コンクリート2階建てということで、避難所、避難場所は屋上に避難できるように、あるいはテラスに避難できるように設計されておりまして、外階段がございまして、こちらは庇ということで、この下で人々が集ったり、あるいはお店を出したりとか、そういう工夫ができるような形を考えております。子供たちはグラウンドの端を通ってここから入っていくような形で、逆に公民館の利用者は駐車場50台がございまして、こちらから中に入るようにしておりました。

現在の下増田公民館のホールが狭いので、住民の要望、期待が大きかったのはホールでございました。ホールが500㎡ということで、この中には舞台や緞帳を設けまして、しっかりと発表できるように、あるいは今までできなかったバレーボール、あるいはバドミントンなどの軽運動ができるようにしております。

山田市長

500㎡というのは、どの位の広さでしょうか。

大澤次長兼生涯学習課長

愛島公民館ぐらいです。

瀧澤教育長

フロア部分が同じぐらいで、そのほかにステージが付くということですね。

大澤次長兼生涯学習課長

そうです。

佐藤生涯学習課長補佐

また、ここに三角形がございまして、軽量トラスト構造ということで、工期を短縮するために合理的な設計になっておりました。令和5年5月オープンという目標がございまして、なるべく時間がかからないような工法、かつ安全な工法というところに力を入れております。

また、2階部分は公民館でございまして、避難所機能ということもあり、浸水しない部分に大会議室、小会議室、和室、調理室を配置してございまして。会議室にはスクリーンやプロジェクタ、ホワイトボードを置くことによって、しっかりと学習できるような機能をつけてございます。

山田市長

防災倉庫はどこにありますか。

佐藤生涯学習課長補佐

ここの、壁がありますが、この中になります。

瀧澤教育長

ここから屋上に上がることもできますか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい。可能です。

山田市長

調理室と防災倉庫はそんなに離れていないですか。

大澤次長兼生涯学習課長

はい。ここが吹き抜けになっておりますが、隣り合わせになります。

洞口委員

エレベーターはどこに付けるのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今のところこの辺りを計画しております。

山田市長

公民館利用者は駐車場から入り、子供は小学校側から入ということで、1階が児童センターですね。

佐藤生涯学習課長補佐

そうです。

瀧澤教育長

ここのテラスには、屋根はかからないのですか。

大澤次長兼生涯学習課長

ここないです。ここは延べ床面積には入らない、ということです。

佐藤生涯学習課長補佐

和室の方にはテーブル、椅子を置けるように40㎡、会議室が30㎡で、防音設備をつけて、カラオケや軽音楽ができるように設計の段取りを組んでいるところでございます。

また、エレベータから食材を搬入しまして、調理室で調理をして、この会議室やテラスを使いながら食べるなど、そのような利用ができるかな、と考えております。

そして、「道」というのがこの部分でございまして、この部分で大人と子供が交流できるようにというのが、工夫でございます。具体的には、閑上公民館のように、様々な形の椅子やソファを準備し、Wi-Fiを整備し、本を読んだり、学習ができたり、あるいは地元の方は、子供たちと例えば昔遊びとか、将棋などをやる、などの利用も想定してございます。

この模型は事務室が1室ですが、しっかりと管理するために、こちら側に公民館の事務室、こちら側に児童センターの事務室ということで、1階玄関側に2つ用意したいということで設計しているところでございます。

大澤次長兼生涯学習課長

もともとの提案では、ここの部分がホールの倉庫になっているのですが、事務室を分けた方がいいのかな、ということで、今、その辺に、公民館の事務室を作れないか、ということで検討しております。

山田市長

公民館は、1階に事務室があつて、2階を貸す感じ、ということですね。なるほど。

佐藤生涯学習課長補佐

そしてここ、上の方からトップライトですとか、高い所の窓から、日当たりを確保したいということで、ちょっと大きいのですが、ここから光を取り込みたいということです。

また、児童センターは、1画にまとめて配置することによって、セキュリティ上、管理がしやすい形になっております。クラブ室は、我々の要望は70㎡で6つ、集会室まで入れて6部屋確保してほしいということで要望しているところでございます。

また、子育て支援室を40㎡、専用室15㎡を事務室の近くに、また、事務室に相談室をつけたいな、と考えておりました。また、ここにウッドデッキを設けまして、園庭の方に子供たちが日当たりのいい所から出て、遊べるように、と考えております。遊戯室は大きく作っておりますが、120㎡ぐらいで、空いている時間はこちらのホール、両方で使えるようにしたいと考えております。

山田市長

120㎡だとどの位ですか。

佐藤生涯学習課長補佐

この部屋よりは広いと思うのですが。

瀧澤教育長

ホールが 500 m²でしたか。

佐藤生涯学習課長補佐

舞台込みで 500 m²です。

山田市長

500 m²に対して 120 m²、この模型だともっと大きく見えますが。

佐藤生涯学習課長補佐

こちらは、面積を指定しないで設計していただいているので、これよりは小さくなって、クラブ室等が大きくなるイメージです。

山田市長

そうすると、ホールで遊ばせてほしい、となりそうだけれども、平日の午後はどうですかね。

瀧澤教育長

貸し館との関係でどうなりますかね。

大澤次長兼生涯学習課長

通常のボール遊びができるぐらい、通常の、閑上児童センター位の面積は確保しています。

山田市長

閑上位はあるんですね。

齋藤こども支援課長

バドミントンをするぐらいの広さはあります。

山田市長

閑上児童センターと同じ位の広さはある、ということでもいいですか。

齋藤こども支援課長

若干、一回り位は小さくなると思います。

瀧澤教育長

こども支援課として、もっと広くしてほしいというような要望はありますか。

齋藤こども支援課長

提案ですので、特に今のところは異論は出ておりません。

洞口委員

もう一回りほしい感じですね。

齋藤こども支援課長

そうなると建築費もかさんでしまうこともありますので。

佐藤生涯学習課長補佐

今回、自由な提案を求めたい、ということで、あえて面積を指定せずに様々な発想からいただいたのですが、この提案が一番コンパクトでございました。

また、窓とか、視認性をよくすることによって、外の人達が立ち寄りやすく、なおかつ防犯上も十分配慮できるようにというのがコンセプトでございます。

大澤次長兼生涯学習課長

ですから、これが完成形というわけではありません。

山田市長

わかりました。では、いったんご着席ください。

ただいまご説明いただきました。複合施設ということではあるのですが、教育会議ということで、公民館を中心に議論をしていきたいとは思いますが、この複合施設についてのご意見・ご感想があればお願いします。

では、地元の洞口委員をお願いします。

洞口委員

今拝見して感じたことは、エレベーターが付く位置から、調理場が遠いのではないかと思います。物を運ぶときに、ずいぶん台車で運ばなければならないのではないかと、距離的にどうなるでしょうか、というのがまず一つ。それから、雪・雨には、テラスはずぶぬれになるのですかね、雨の時は利用できないのですかね、というのがあります。

山田市長

テラスの庇が必要ではないか、ということですね。

浅野委員はいかがでしょう。

浅野委員

先ほど、児童センターの遊戯室が狭く、公民館のホールはどうか、という話がありました。下増田公民館は、今まで体育的なことができるホールがなかったので、どの位の方がそ

ういうことをしたいのか比較できず、予想つかないとは思いますが、私が公民館に勤務していた時のことを思えば、午後4時から7時までではほとんどホールを使わないことが多かったので、そうなるとう児童センターの子供たちが使うことはできる、空きの時間なのかな、と思いますので、毎日ではなくても、午後の時間帯は子供たちが利用できるかもしれないな、と思いました。

それから、事務室を分ける、というのは、確かに結構大きな建物になるので、学校側、駐車場側できちんとう見守りの体制ができるようにした方がいいな、と思いますので、いいアイデアだと思いました。

山田市長

公民館のホールを、児童センターとして使えるような、例えば、曜日分けるとか、今は狭いホールなので、公民館のホールを使っている人はいないと思いますが、各種団体、午前午後、他の公民館はほぼ埋まっていますよね、しかも、立派なものが出て使える、となれば、おそらく何々愛好会、みたいなのところから、使いたい、という話が出てくるのが予想されるし、むしろそうなることで地域が活性化されてくると思うので、その一方で、児童センターの遊戯室、児童の数からして狭いと思います。その辺を、児童センターの遊戯室をそのまま、ということであれば、週に何度か、大きい、広いホールを使えるようにするとか、その辺、公民館とう児童センターの連携が必要なのかな、と感じました。

荒井委員いかがでしょうか。

荒井委員

今市長さんおっしゃったとおり、今だけの問題なのかもしれませんが、子供は多いので、今の段階で拝見していても、外で遊んでいる子供がとて多くて、遊具に張り付いている子供たちが多いので、外の整備も必要なのかな、と思いました。

それから、土手は階段を作ることはできるのでしょうか。土手をいじってはダメだ、という話をどこかで聞いたような気がするのですが。

山田市長

これは、階段は作るのですか。

佐藤生涯学習課長補佐

すみません、土手の階段はイメージでして、そこまではやらないつもりです。

荒井委員

向こう側は何も作れないと思いますし、逆に作ったら危ないと思います。土手にはいかな方がいいのかな、と思います。

山田市長

そうですね。
佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

楽しみだな、という感想です。物をつくるということで、楽しみなのですが、公民館と児童センターの合築なので、交流というソフト面を充実させていただいて、地域の高齢者の生きがい、子供たちと触れ合って、役に立ててよかったな、と思えるような、イベント・企画を考えていただければ、下増田の活性化につながるのではないかと思います。

山田市長

なるほど。ありがとうございます。その辺、何か考えていることはあるのでしょうか。

大澤次長兼生涯学習課長

今の委員さんのご意見にもありましたが、今年の下増田公民館まつりですが、下増田児童センターのこどもまつりと同時開催ということで、今後の合築を見越した形で、日程を合わせて開催したということもございます。そういったことを、通常の公民館、児童センターの事業の中でも、施設面でも、運営面でも、協力して行っているということがございます。これからは建物も一つになりますので、さらに連携しながら進めていけるような公民館を考えております。

山田市長

そうですね。男の学び舎さんや、ワッショイDEN×3さん、とか、盛んな地域ですので、地域が子供たちのためにということも含めて、頑張っておられる地域なので、地域の特性を最大限生かせるような仕掛けをお願いしたいところです。

そのほか、合築を進める上で課題とか懸案とか、こうあったらいいな、というような希望はありますか。

洞口委員、いかがでしょうか。

洞口委員

この合築の建物のイメージの色などは決まっているのでしょうか。

山田市長

その辺、公民館を作り上げていく上で、進め方、というか、地域への説明等はどうなっているのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい、12月中旬に一度説明会を持ちまして、実際の間取りに合わせた形で住民の皆さんの意見をいただきたいと考えてございました。

また、1月下旬から2月上旬位に、懇話会で最終的なデザインを確定しますが、進捗状況等もお知らせしながら、意見を取り入れていきたいと考えております。

山田市長

その説明会は、地元の方ならだれでも参加できるのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今は懇話会に対して、という形で考えております。

山田市長

メンバーはどのような方でしょうか。地域の町内会長さんとか、区長さんとかのメンバーでしょうか。

齋藤こども支援課長

児童センター関係では、地域活動クラブ、PTAのメンバーも入ります。

山田市長

いずれ、令和5年5月開館を目指しているということで、教育長、これまでの話を受けていかがでしょうか。

瀧澤教育長

先ほどの説明に、外からの非常階段がありましたが、やはり、震災の時に浸水したところですし、下増田の子供たちも5名亡くなっており、学校も防災教育に力を入れておりますが、非常階段が本当にあそこがいいのか、とか、1か所でもいいのか、とか、駐車場側に必要ないのか、とか、防災面で少しこれから見直す必要があるのかな、と思っております。また、話題にも出ましたが、せっかく合築するので、地域活動と児童センターの活動、それから学校も隣接しておりますので、学校の教育活動との交流とか、それが相乗効果をもたらすように、これからソフト面でどうやっていくか、学校も交えて協議していく必要があるのかな、という感じがしております。

ホールの問題も出ましたが、せっかく作るので、あえて使わなくてもいいのかもしれませんが、放課後であれば学校の体育館も空いておりますので、そういったところの活用も、今度は道路を横断しないので、かなり自由にできるのではないかと思いますので、運用とか、そういうところで工夫していけるのではないかと思います。

それから、地域学校協働活動が、下増田は本部が公民館にあるので、それも活用していくと、何かユニークな活動ができそうな気がします。

山田市長

ありがとうございます。本当に楽しみな施設ですので、地域の声をよく聞いて、合築に向

けて進めていただきたいと思います。

そのほか、皆さんからご意見・ご要望・課題、皆さんからありますでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

非常時には避難所になると思うのですが、太陽光発電はどれぐらいの電力というか、どれぐらい対応できるということで想定しているのでしょうか。

山田市長

なるほど。太陽光発電について、いかがでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今考えてございますのは、基本的には通常の発電機で非常用の電源を確保する部分でございます。もう1つが、現公民館に、太陽光発電の施設がございますので、それを移設できないか検討しているところでございます。すみません、太陽光の容量については、今手持ち資料がございません。

大澤次長兼生涯学習課長

現在、太陽光を載せている施設はありますが、十分な電力を供給できるということではございません。最低限のコンセントの利用ですとか、最低限の照明に電源を供給するという程度で、今は賄っております。また、非常用のバッテリーも備えておりますので、例えば若干曇っていても、使える、という状況にはなっております。

山田市長

閑上小中学校だと、あそこに設置している太陽光発電で、1日か2日持つ、というような話を聞いたことはあるのですが。

瀧澤教育長

市役所にもあるかと思いますが、赤いコンセントが太陽光と繋がっていて、はっきりした時間は分かりませんが、太陽光をつければ、一定の時間、停電になっても使えます。

山田市長

その辺、調べていた方がいいかもしれません。防災の面で、こういうことに取り組みます、ということをしっかり説明できるようにしておきたいと思います。

他はよろしいでしょうか。

それでは、事務局は本日の協議内容を十分に取り入れていただき、事業に取り組んでいただきたいと思います。

総合教育会議はこれまでとさせていただきます、以上で本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

その他、事務局から何かありますでしょうか。

芳賀教育総務課長

特にございません

山田市長

ないようですので、以上で終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。事務局へお返しします。

芳賀教育総務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第14回名取市総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻

午前10時40分

令和3年度 第14回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和3年11月30日（火）

2 会議の場所

名取市役所3階 議会棟第3・第4委員会室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 佐藤 俊隆

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 荒井 龍弥

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

菊池教育部長、鈴木理事兼学校教育課長事務取扱、大澤教育部次長兼生涯学習課長、芳賀教育総務課長、小松文化・スポーツ課長兼復興ありがとうホストタウン推進室長兼市史編さん準備室長、齋藤こども支援課長、高橋指導主事、森下指導主事、佐藤生涯学習課長補佐、宇田教育部企画員兼教育総務課長補佐、菅原教育総務課教育総務係長

7 議題

(1) GIGAスクール構想(モデル校の取組)について

(2) 下増田公民館と下増田児童センターの合築について

8 開会時間

午前9時30分

9 会議の概要

芳賀教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に入ります前に、資料の確認をお願いします。第14回名取市総合教育会議次第と、出席者名簿をご用意させていただいております。不足がありましたらお教え願いたいと存じます。よろしいでしょうか。

また、本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ第14回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症も、ようやく落ち着いてきたようにも感じておりましたが、ここにきてオミクロン株という、新たな変異株が出て、大変憂慮しているところです。

いずれ、少しずつかつての生活を取り戻していけるように、できる対応を、教育現場ともしっかり連携をして進めていきたいと考えているところです。

本日の総合教育会議のテーマは、「GIGAスクール構想（モデル校の取組）について」と「下増田公民館と下増田児童センターの合築について」ということで、第12回の総合教育会議でも同じテーマではありますが、その後の経過等について情報共有をさせていただきながら、さらに議論を深めてまいりたいと考えているところでございます。ぜひ、皆さんの忌憚のない意見をいただければと思います。今日はよろしくをお願いします。

芳賀教育総務課長

それでは、3の議題に入ります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めていただきます。山田市長、よろしくお願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしくお願いいたします。

まず初めに、議題（1）GIGAスクール構想（モデル校の取組）についてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

鈴木理事兼学校教育課長事務取扱

学校教育課の鈴木でございます。お手元のプレゼン資料、黄色いスライドが載っているものと、別紙1、令和3年、4年の名取市のiPad活用モデル事業、以上の資料になります。これから指導主事が、モニター画面でプレゼンをしながら説明を申し上げます。黄色いスライドの資料を使いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

森下指導主事

皆様、こんにちは。学校教育課の森下博史です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

では、GIGA スクール構想（各校の取組）について、説明いたします。

今年度から、高館小学校、相互台小学校、みどり台中学校において、名取市 iPad 活用モデル事業を展開しております。本日は、授業における iPad の効果的な使い方について説明いたします。

初めに、iPad の効果的な使い方として、課題や資料等を提示する場面での活用が挙げられます。授業の導入で、本時の目標や課題を児童生徒に提示することがあります。また、授業の中で、資料等を提示することもあります。これまでは、黒板に書いたり、掲示物を作成したりして、課題や資料等を提示していました。これが、iPad の導入により、課題や資料等の作成が容易になりました。

こちらは、英語の授業です。iPad で作った英語の課題を大型モニターに表示したものです。

こちらは、理科の授業です。iPad で撮影した実験器具の完成した形を大型モニターで、児童生徒に示しています。こちらは、算数の授業です。教員が iPad で作成した目的地までの経路の資料を児童生徒の iPad に送信したものです。児童生徒は送信された資料を自分の iPad で見ることができます。児童生徒が資料に書き込むこともできます。

次に、児童生徒の意見や考えを共有する場面での活用が挙げられます。新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。各学校では工夫した実践が行われています。授業では、児童生徒が自分の意見や考えをもとに、グループで話し合う場面が多く設定されています。これまでは、黒板やホワイトボード、画用紙などを使って、グループやクラス全体で一人一人の意見や考えの共有をしていました。これが、iPad の画面上で、児童生徒の意見や考えの共有ができるようになりました。

こちらは、英語の授業です。Jamboard というアプリを使って、英文をグループで作成しているところです。

こちらは、算数の授業です。iPad で撮影した児童生徒のノートなどを、大型モニターに表示することができます。大型モニターに表示されているのは、赤丸をつけた iPad で撮影した児童のノートです。この機能をエアドロップといいます。Wi-Fi を使わずに簡単に送信する機能です。他の児童生徒の iPad にも送信することができます。

次に、動画を記録する場面での活用が挙げられます。これまでは、ビデオカメラなどで撮影したり、友達から教えてもらったりして、自分の活動の様子を確かめていました。このため、事前の準備が必要でした。これが、児童生徒が自分の活動を iPad で記録できるようになりました。

こちらは、理科の授業です。電池で風車を回す実験の様子を iPad で記録しています。

こちらは、音楽の授業です。児童生徒がお互いに、箏の演奏を iPad で動画に記録しています。記録した動画は iPad で見ることができます。これにより、自分の技能を正確に確認できるようになりました。

こちらは、英語の授業です。英文の音読練習をお互いに iPad で動画に記録しています。

こちらは動画をご覧ください。

（英語の授業の様子を動画で視聴）

次に、アンケートを実施する場面での活用が挙げられます。これまでは、アンケート用紙

を準備し、児童生徒が記入していました。その後、回収、集計を行い、結果を発表していました。これが、大型モニターの2次元バーコードをiPadで撮影するだけで回答ができるようになりました。撮影すると、iPadにアンケートが表示されます。児童生徒は、その画面に入力するだけです。児童生徒が入力すると、自動で集計をします。自動で集計するので、このように、その場で集計結果の発表もできます。

次に、インターネットでの調べ学習をする場面での利用が挙げられます。これまでインターネットでの調べ学習は、コンピュータ室で実施していました。これが、iPadの導入により、普通教室でいつでもできるようになりました。

その他、iPadのアプリを活用した授業が行われています。

こちらは、音楽の授業です。アプリを使って作曲している様子です。このように、iPadが効果的に活用されています。

一方で、課題も見えてきました。

モデル校から挙げられた課題は大きく3点あります。

1点目は、iPadの機能やアプリの操作法の習得が必要で、時間を要することです。児童生徒はもちろんですが、教員もスキルの向上が求められます。

2点目は、不具合の発生が予想できないことです。iPad上にあるアプリやインターネットの接続が途中で停止することがあるという報告を受けています。こちらは、業者等と連携しながら不具合の解消に努めていきたいと思えます。

3点目は、授業の中でiPadを使うことが目的とならないことです。授業のねらいに沿ったiPadの効果的な使い方について、今後さらに実践を重ね、検証していく必要があります。

では、モデル校の今後の取組について、3点説明いたします。

初めに、オンライン学習です。高館小学校が10月13日に実施しました。そのときの様子を動画でご覧ください。

(動画で高館小学校のオンライン学習の様子を視聴)

2年生「〇から始まる言葉を答えよう」です。こちらは、担任の先生です。担任が、家にいる児童に対して、問題を出しています。最初は「カ」から始まる言葉を児童が答えています。次は、「ス」から始まる言葉です。担任だけでなく、ほかの児童ともやりとりができます。

次に、不登校支援への活用です。

現在、不登校児童生徒に対する学習支援などが求められています。そこで、iPadを効果的に活用できるのではないかと考えています。その最初の段階として、不登校児童生徒とオンライン形式での交流を行います。みどり台中学校が10月26日の公開授業で実施しました。

最後に、iPadの持ち帰りです。現在モデル校で実施しております。来年度からは、全ての学校で実施する予定です。いずれの取組も、さらに実践を進め、成果と課題を検証してまいります。

これで、GIGAスクール構想（各校の取組）についての説明を終わります。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

初めに、ただいまの説明で確認しておきたい事項や、去る 10 月 26 日にみどり台中学校、11 月 12 日に高館小学校でモデル授業の公開が行われましたが、その感想なども含めて、何かあれば、お願いします。

いかがでしょうか。皆さんご覧になりましたよね。荒井委員いかがでしょうか。

荒井委員

私は高館小学校にお邪魔しました。先生方も、当初、昨年の導入直後よりは操作もスムーズになってきたな、と思います。課題提示とか、教材提示といったところはすごく子供たちにもスムーズに行っていて、ストレスはないような感じがしました。そういう使い方は iPad を上手く使っているんじゃないかな、と考えたところでした。

山田市長

ありがとうございます。佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

iPad の一番の利点は課題提示だろうな、とは思っています。私も 3 年ぐらい毎時間 iPad で課題提示をする、というか、英語の場合だと、教科書を撮影して、本文を拡大表示して、それを見ながら音読をするということで、非常に集中力が高まって良かったり、音声も入っているんで、単語も、iPad 一つで、発音の確認ができたりなど、教員が活用する分には効果的だな、と思いました。あと、みどり台中学校の時には、市長さんもいらっしまったと思いますが、音楽の琴の演奏をやっていて、それを撮影して、自己評価する、というような、それが一番あの授業の中では効果的だったのではないかと思います。それ以外の、「みどり台中学校をよくするには」、というような発表もありましたけれども、あれは iPad はなくてもいいのではないかと、むしろ逆効果ではないのか、と、iPad の使い方ひとつで良くもなるし、意味のないものにもなる、という印象を受けています。

山田市長

確かに、課題提示をして、コミュニケーションを取ってやり取りするところでは本当にいいツールだな、と感じておられて、一方で、今おっしゃったとおり、課題にもあがっているとおりに、効果的な使い方ということですかね。そこはこれからの課題になるのかな、と思います。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

私はみどり台中学校を見させていただきました。良かったところとしては、先生の授業の準備が、私の小学校の時のことを思い出すと、オーバーヘッドとかで、先生が図形を手で書いてきたんだな、ということがありましたけれども、それを iPad の中ですぐに準備ができて、すぐに提示できるということは、先生方も準備の点では楽になられたんだろうな、というよ

うに思うのですが、実際に子供たちと画面共有をしたりするときの接続、通信障害ですか、そういう時のタイムラグによって子供たちが集中できていない、私も見ていて、こんなに時間がかかるのか、どうなっているのかな、となると、その部分で、長くない授業時間がもったいないことになるな、とは思ったのですが、業者さんが来ていらしたということで、そこはモデル校であるからの今の状態であって、今後改善されていくのだろうな、とは思ったのですが、そういう部分、また、ディスカッションをする時間で、子供たちは、せっかく目の前にいるのに、画面ばかりを見て、画面の中でディスカッションしているのはどうなんだろう、と。目の前にいるのに、きちんと対話での班での話し合いをしたほうがいいだろうに、画面を見ている時間の方が長くて、それは学校にせっかくみんなが集まっているのに、やる必要があるのかな、と、やはり使い方で全然違ってくると思いました。

今、娘が自宅で zoom で語学の勉強を、カナダの先生に教わっており、なんて便利な時代になったのだろう、と思います。でもそれは、心身ともに成長した人が画面の中でやりたいことを、やりたい勉強をやっているからできるんだろうな、と、娘を見て思うのです。小学校はなかなか、使い方を限定してあげないと、わざわざ入れた意味がなくなってしまうので、これからの見極めになるのかな、と感じました。

山田市長

やはり、メリットとデメリットがあって、今おっしゃっていただいたのは、せっかく人と人がリアルで集まっているのに、画面越しに会話をしている、相手の目を見ずにコミュニケーションをしている、ということは、リアルはリアルで大事にしたい、ということですね。なるほど。ありがとうございます。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

モデル事業として、4月から始まったわけですが、やはり皆さんがおっしゃったとおり、使い分けというか、授業によっては、例えば動く、体育の授業、それから音楽で声を出して歌う、英語でお話をするということでの iPad の活用は大変いいと思います。それから、社会では、教科書で地名だけ、絵だけで見ても分からない場合、動くような画面で、例えば遠くの地名、ニューヨークを検索すると、その地域のことを見ることができるので、そういう使い方はとてもいいと思いますね。それで、先生方も大分慣れてきたと思うのですが、生徒たちも同じなのですが、開くのに時間がかかったり、そういうことがスムーズにできるようになればいいな、と思います。時間のロスが少し出ているのではないかと心配しておりました。先ほど、画面で見たものは、iPad で撮ったものをホワイトボードとかテレビとかで、皆で共有できるということはすごくいいことだと思っております。やはり、使い方を早く覚えて、授業がスムーズに行くことを願っております。

山田市長

情報共有とか、コミュニケーションという部分では非常に良いけれども、不具合による時

間のロスとか、やはりプラスマイナス両方ある、ということだと思います。

今、モデル校での公開授業を見ていただいたの感想ですが、これについて教育長いかがでしょうか。

瀧澤教育長

私は課題としても上がっている、効果的な活用としては、資料提示は本当に効果的だと思います。私は学校現場の時に、社会科の時間に、やはり社会科の時間だと学年が上がるにつれて現場に行けなくなることが多いので、視覚的に訴えるものが必要だという考えで写真を使ったのですが、昔だとリバーサルフィルムで写真を撮って、写真屋に出してスライドを作ってもらって、教室を暗くして映写機で映す、という使い方をしていました。今だったら iPad で写真を撮って、その場ですぐに見せられる、ということで、そういう面でも先生方にとっては非常にいいアイテムの一つではないかと思います。反面、先日県の方で iPad を使う頻度の調査がありました。毎時間使っている、毎日使っている、週に何回使っている、というような調査があったのですが、私はそういう調査はやめてほしいと思っています。いかにもたくさん使うことがいいことだ、というように捉えられかねない。使わなければならないんだ、というプレッシャーは必要ないと思います。ただ、今年特に難しいと思ったのは、全員が持ったのが今年初めてで、先生方も初めてなので、ある程度スキルを身に付けるための時間が必要だと思うのです。例えば、自転車を預けられても、乗れなければ何も使えませんので、ある程度練習して交通ルールを守れば、必要な時に自転車が使えますが、iPad も今、子供たち比較的使えますが、スキルを身に付ける時間というのが必要ですので、この授業で必要な、と思っても、使わせないことには慣れない、慣れてから初めて必要な時に使える、ということになります。私が今必要だな、と思っているのは、来年度以降、1年生から中学3年生までの間で、どういう授業で使って、どういうスキルとか、情報リテラシーを身に付けていくのか、カリキュラムを考えて使わせていかなければならないのではないかと。もちろん、ガチガチのカリキュラムではなくて、学校で、先生方の考えで、弾力的に使っていただいていると思うのですが、その辺を、来年度までモデル校の取組がありますので、その辺を視野に入れて取り組んでいただけたらいいのかな、と思います。

山田市長

ありがとうございます。

カリキュラム化していくということで、一定のお考えが出てきましたけれども、これからは今のモデル校の感想から出てきた課題やいいところ、というところも含めて、先ほど、資料の方でも、操作方法の習得であるとか、不具合の発生の対応、効果的な使い方ということで挙げられておりました、皆さんからの感想もそれに沿ったような形で出されておりますけれども、今後の GIGA スクールの取組について何かご意見があればいただきたいと思います。

佐藤委員お願いします。こういうことが課題なので、こうだといいな、ということでも結構です。

佐藤教育長職務代行委員

GIGA スクール構想の前に、学力とは何か、ということをもう一度考えなければならないと思います。とても効率が良くなったということはあるのですが、例えば授業をスムーズに進めるために、プリントを配って、書き込んで、というような感じで、流れはスムーズですけれども、ノートをしっかり取るとか、ノートに自分の考えをまとめるとか、そういうような学習がおろそかになっているとか、軽視されているのではないかということで、昔から「剥げ落ちる知識」という、大学入試が終わったら、そこがピークで、あとは忘れていく、と、そういうことがありますけれども、剥げ落ちてもいいのですが、その後何か残るのか。しっかりと自分の考えをまとめる力とか、自分の体験と結び付けて、ここは分かって、ここはまだ分からないから、ここはしっかりと勉強する、という振り分けとか、そういう力がちゃんとつけられていくのだろうか、ということがとても不安なのです。とても便利で、書かなくても済む、ということがありますが、キーワードを見て答えを出すというようなことが習慣になっていって、そういうことがなくて、本当に自分の考え、伝えたいことをしっかりとまとめるとか、そういうことを重要視しなければならないのではないのかな、と思います。iPad を使って、それについてきちんと説明できる力とか、プレゼンテーション能力ということで、そこを重視したような指導の仕方に時間をかけてやっていただけたらいいのですが、ただアイデアを発表してはい、終わり、というようなことがあるとまずいな、と思いました。高館小学校の時に、「高館をよくするために」ということで、イチゴ摘み体験とか、産直市場とかいろいろ出ましたけれども、本当に自分たちが、次にはどういう段取りで、どういう課題があって、とか、そういうことを深めて考えていって、小学校6年生なりに一つ、こういうことができたね、と、そこまでいけば本当の学習ですけれども、ただ思い付きを言って終わり、ということでは何の深まりもないな、と。学力とは、生きる力とは何なのかな、ということをもう一度考えながら授業をやった方がいいな、ということを感じておりました。

山田市長

大変深い、根本にかかわるお話をいただきました。非常にありがたいお言葉だと思うのですが、おそらく、ノートを取ることで善、ではないのですが、ノートを取ることで、自分の頭の中に入って、考えることで、自分で組み立てをして、想いをどう伝えていくか、ということにつながるということだと思います。ただ、パッと画面に映ったものをみて、分かった気になっているということは、「剥げ落ちる知識」ということなので。一方で、これからの時代、iPad を含めた、ICT、機械を使っていかなければいけないこともあると思いますので、その辺の歩合、ですよね。非常に深いテーマをいただきましたけれども、荒井委員はいかがでしょう。

荒井委員

今思い出しましたが、私が小学校の頃に、特別な教室があって、机にボタンが埋め込んであって、プログラム学習、アナライザーがあって、子供心に、おもしろそうだな、先生やってくれないかな、と思ったことはあったのです。でも、その後の研究などをみると、すぐに

飽きる、と。それで、広がらなかった、という総括がなされているんですね。この、GIGA スクールに関して、最初は子供たちが興味を持つ、おもしろそうだな、と。この段階は当然そうなのですが、いずれそれは、それだけでは飽きる、というのが目に見えておまして、子供の興味だのみでやっていると、同じ轍を踏んでしまいかねないと思って伺っておりました。その時に、学力に関して、単に答えを出すだけの、芸を仕込むような教え方ではだめではないか、という批判がなされたように読んだ覚えがあります。そういうところを超えて、ツールとしては、いろんな使い方ができると思いますので、そういったところを上手く使っていく必要があるのかな、と思っております。例えば、データを保管したり、検索したりすることが飛躍的に簡単になっていると。しかも、場所を取らない、というのがデジタルとしてのメリットなのかな、と思います。とすれば、その学習内容を、個人ごとに、とか、クラスごとに、保管することがすごく簡単になるはずで、先ほどの琴の使い方にしても、何かの使い方にしても、映像にしても、取っておくことができ、じゃあ、自分が、今、この場でこうだった、というだけではなくて、ひと月前は、琴の演奏がこんなに下手だった、みたいなことも振り返ったり、そういうような、学習の進行状況が自分で把握できるようなものに、いわゆるポートフォリオのようなものが充実できると、自分の歩みみたいなものが、より明確に把握でき、じゃあ、次はこうしよう、ということを目指しやすくなるのではないかと、思っております。

山田市長

ICT の特性を生かした使い方、ということですよ。データの保管とか検索とか。それは一つありますよね、答えを出すだけの教え方ではなくて。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

先ほど佐藤委員がおっしゃったように、私もそういう考えで、ノートにとることを忘れてしまうのではないかな、という心配はあります。それがデメリットかな、と思います。やはり、自分の考えをきちんとまとめるということが大事な、と思っております。何か月か過ぎましたけれども、来年度 iPad を使って、どういう感想を得たか、という作文を生徒たちに書かせるというのもいいのかな、と思いました。書くことを忘れさせてはダメかな、と思っております。やはり、メリハリ、使う時は使う、使わないで全部手書きで授業を受ける、とか、メリハリをつけた授業を取り組んでいただきたいと思っております。今、世の中が、毎日激しい変化ですよ。事件も起きますし、事故も起きますし、こういう社会の中で活躍できるような強い子供たちに育ていくために、iPad をいかに使っていかかというのもこれからの課題なのかな、と思っております。

山田市長

ありがとうございます。子供たちに感想を書かせてはいかがか、というアイデアをいただきました。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

もう、ICTを使わない、という方向にはいかないで、世の中が、学校だけではなくて、ということなので、やっていかなければいけないのでしょうから、モデル校はあと1年、モデル校としての苦勞が今後もついていくのだろうな、と思うのですが、まずは先生方からメリット、デメリットを把握して、こういうふうに行けばいいんだ、というものがあれば、子供たちは素直についてくると思うので、この3校の先生方はご苦勞になるかと思いますが、ぜひいい方向になるように検討して、いい使い方をしていただけたらいいな、と思います。

山田市長

ありがとうございます。ちょっと、先生はプレッシャーですね。

みどり台で不登校生徒に使ったり、など、ICTだからこその学びというか、教え方というか、その辺についてアイデアだったり、ご意見だったりということはありませんか。こういう使い方をすれば良くなる、というような。

佐藤教育長職務代行委員

普通には使えます。私も2年間オンライン授業をしましたが、普通に画面の前で、実物を持ってきて実験を実際にやって見せて、こういうふうに、今の体験を生かして簡単に解けるんだよ、ということをやって、その後で問題を解かせてみせる。例えば公園のシーソーや、天秤のつり合いの実験をして、から画面上の問題を解かせると、あっという間に解けるので、ああ、そうなんだ、となって普通の教室の授業を持ち込めることは持ち込めます。それは、完全に臨時休業になった場合、オンライン授業でやる場合ですけれども、教員の方の工夫というか、いろんなデータ、ノウハウを教員の方で蓄積して行って、いつでも使えるような経験を積んでいけば、普通の教室でも、必要なところだけ選んで、ということもできると思いますが、今のところ、荒井先生が言ったとおり、自分の学習の記録をしっかり取るとか、自分のパフォーマンスを期間をおいて記録して、成長を捉え、記録しておくとか、あるいは自分のノートとか、友達の素晴らしいノートを撮っておいて、それを生かして使うとか、あるいはプレゼンテーションのためのパワーポイントのようなスライドを作って、実際本当にきちっと、原稿を読まずに絵を見て伝えられるように練習するとか、そういう形であると、今後にふさわしい力がつくのかな、と思います。

山田市長

はい、視覚に訴えるやり方、プレゼン力、データの保管、検索、そういった特性を生かして、ということですが、では、教育長、次年度に向けてまとめをお願いします。

瀧澤教育長

不登校の話が出ましたが、まだ限定的ですが、不登校の子については、はなもも教室があっ

たり、別室登校があったり、たくさんのチャンネルを作ってあげた方がいいと私は思っているんです。学校にも、はなももにも来れないけれども、オンラインだったら人と繋がれる、という子供がいたら、積極的に活用して、少しずつ心を開くような使い方ができれば、これは来年度にかけても、ぜひ試行していききたいな、と思っております。

また、私がいいな、と思うのは、自分を客観的に見ることができる、琴の演奏であったり、あとは前に見た体育のマット運動を動画で撮って自分で見ることができる、鏡の前でやるぐらいしかできなかったことができる、というのは、非常にすごいと思います。ただ、先ほど他の委員さんもおっしゃっていたとおり、子供にどこまで使わせるのかというのは、大人と違うと思うのです。例えば、文書を活字で見ると、タブレットで見ると、活字を目で追って見ていった方が、きちんと頭に入る、そういう力、あるいは考えながら書く、という力が、ある程度小さいころから身につけている大人がタブレットを見るのと、それがまだ未成熟な子供が使ってしまうのでは、違うような気がします。

もう一つ、違う観点からですが、先ほど不具合があったときの対応ということがありましたが、授業中、想定外のことが起きるのは日常茶飯事のことなのです。例えば、こう聞けばこう答えるだろう、と思っても、子供は全然違うことを言うこともありますし、あるいは実験が上手くいかないこともあります。大事なものは、授業のねらいと組み立てを先生がどれだけしっかり持っているか、授業力があれば、仮に iPad に不具合があった時に、どう対応できるのか、授業をそこで中断するのではなくて、授業の組み立てを考えていって、応用力ですとか、そういった力を持っていればいいと思うのですが、それで授業ができなくなるようでは困るな、と思います。

山田市長

大変厳しい意見ありがとうございました。

それでは、この件についてはよろしいでしょうか。他にありますでしょうか。よろしいですか。

以上で、この件につきましては終了とさせていただきます。

それでは、次の議題に移らせていただきますが、出席者入れ替えのため暫時休憩とさせていただきます。

(出席者入れ替え)

山田市長

それでは、再開いたします。次に、下増田公民館と下増田児童センターの合築についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

大澤次長兼生涯学習課長

それでは、下増田公民館の合築の関係ですが、資料は用意しましたが、今日は模型を用意してございますので、この模型を使いまして説明したいと思っております。生涯学習課の佐藤課長

補佐から説明いたします。

(出席者、模型を囲み、模型により説明を受ける)

佐藤生涯学習課長補佐

こちらが、プロポーザルで1位になった設計でございます。増田川のところに敷地がございまして、こちらの方に建物がございまして、鉄筋コンクリート2階建てということで、避難所、避難場所は屋上に避難できるように、あるいはテラスに避難できるように設計されておりまして、外階段がございまして、こちらは庇ということで、この下で人々が集ったり、あるいはお店を出したりとか、そういう工夫ができるような形を考えております。子供たちはグラウンドの端を通ってここから入っていくような形で、逆に公民館の利用者は駐車場50台がございまして、こちらから中に入るようにしておりました。

現在の下増田公民館のホールが狭いので、住民の要望、期待が大きかったのはホールでございました。ホールが500㎡ということで、この中には舞台や緞帳を設けまして、しっかりと発表できるように、あるいは今までできなかったバレーボール、あるいはバドミントンなどの軽運動ができるようにしております。

山田市長

500㎡というのは、どの位の広さでしょうか。

大澤次長兼生涯学習課長

愛島公民館ぐらいです。

瀧澤教育長

フロア部分が同じぐらいで、そのほかにステージが付くということですね。

大澤次長兼生涯学習課長

そうです。

佐藤生涯学習課長補佐

また、ここに三角形がございまして、軽量トラスト構造ということで、工期を短縮するために合理的な設計になっておりました。令和5年5月オープンという目標がございまして、なるべく時間がかからないような工法、かつ安全な工法というところに力を入れております。

また、2階部分は公民館でございまして、避難所機能ということもあり、浸水しない部分に大会議室、小会議室、和室、調理室を配置してございまして。会議室にはスクリーンやプロジェクタ、ホワイトボードを置くことによって、しっかりと学習できるような機能をつけてございます。

山田市長

防災倉庫はどこにありますか。

佐藤生涯学習課長補佐

ここの、壁がありますが、この中になります。

瀧澤教育長

ここから屋上に上がることもできますか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい。可能です。

山田市長

調理室と防災倉庫はそんなに離れていないですか。

大澤次長兼生涯学習課長

はい。ここが吹き抜けになっておりますが、隣り合わせになります。

洞口委員

エレベーターはどこに付けるのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今のところこの辺りを計画しております。

山田市長

公民館利用者は駐車場から入り、子供は小学校側から入ということで、1階が児童センターですね。

佐藤生涯学習課長補佐

そうです。

瀧澤教育長

ここのテラスには、屋根はかからないのですか。

大澤次長兼生涯学習課長

ここないです。ここは延べ床面積には入らない、ということです。

佐藤生涯学習課長補佐

和室の方にはテーブル、椅子を置けるように40㎡、会議室が30㎡で、防音設備をつけて、カラオケや軽音楽ができるように設計の段取りを組んでいるところでございます。

また、エレベータから食材を搬入しまして、調理室で調理をして、この会議室やテラスを使いながら食べるなど、そのような利用ができるかな、と考えております。

そして、「道」というのがこの部分でございまして、この部分で大人と子供が交流できるようにというのが、工夫でございます。具体的には、閑上公民館のように、様々な形の椅子やソファを準備し、Wi-Fiを整備し、本を読んだり、学習ができたり、あるいは地元の方は、子供たちと例えば昔遊びとか、将棋などをやる、などの利用も想定してございます。

この模型は事務室が1室ですが、しっかりと管理するために、こちら側に公民館の事務室、こちら側に児童センターの事務室ということで、1階玄関側に2つ用意したいということで設計しているところでございます。

大澤次長兼生涯学習課長

ももとの提案では、ここの部分がホールの倉庫になっているのですが、事務室を分けた方がいいのかな、ということで、今、その辺に、公民館の事務室を作れないか、ということで検討しております。

山田市長

公民館は、1階に事務室があつて、2階を貸す感じ、ということですね。なるほど。

佐藤生涯学習課長補佐

そしてここ、上の方からトップライトですとか、高い所の窓から、日当たりを確保したいということで、ちょっと大きいのですが、ここから光を取り込みたいということです。

また、児童センターは、1画にまとめて配置することによって、セキュリティ上、管理がしやすい形になっております。クラブ室は、我々の要望は70㎡で6つ、集会室まで入れて6部屋確保してほしいということで要望しているところでございます。

また、子育て支援室を40㎡、専用室15㎡を事務室の近くに、また、事務室に相談室をつけたいな、と考えておりました。また、ここにウッドデッキを設けまして、園庭の方に子供たちが日当たりのいい所から出て、遊べるように、と考えております。遊戯室は大きく作っておりますが、120㎡ぐらいで、空いている時間はこちらのホール、両方で使えるようにしたいと考えております。

山田市長

120㎡だとどの位ですか。

佐藤生涯学習課長補佐

この部屋よりは広いと思うのですが。

瀧澤教育長

ホールが 500 m²でしたか。

佐藤生涯学習課長補佐

舞台込みで 500 m²です。

山田市長

500 m²に対して 120 m²、この模型だともっと大きく見えますが。

佐藤生涯学習課長補佐

こちらは、面積を指定しないで設計していただいているので、これよりは小さくなって、クラブ室等が大きくなるイメージです。

山田市長

そうすると、ホールで遊ばせてほしい、となりそうだけれども、平日の午後はどうですかね。

瀧澤教育長

貸し館との関係でどうなりますかね。

大澤次長兼生涯学習課長

通常のボール遊びができるぐらい、通常の、閑上児童センター位の面積は確保しています。

山田市長

閑上位はあるんですね。

齋藤こども支援課長

バドミントンをするぐらいの広さはあります。

山田市長

閑上児童センターと同じ位の広さはある、ということでもいいですか。

齋藤こども支援課長

若干、一回り位は小さくなると思います。

瀧澤教育長

こども支援課として、もっと広くしてほしいというような要望はありますか。

齋藤こども支援課長

提案ですので、特に今のところは異論は出ておりません。

洞口委員

もう一回りほしい感じですね。

齋藤こども支援課長

そうなると建築費もかさんでしまうこともありますので。

佐藤生涯学習課長補佐

今回、自由な提案を求めたい、ということで、あえて面積を指定せずに様々な発想からいただいたのですが、この提案が一番コンパクトでございました。

また、窓とか、視認性をよくすることによって、外の人達が立ち寄りやすく、なおかつ防犯上も十分配慮できるようにというのがコンセプトでございます。

大澤次長兼生涯学習課長

ですから、これが完成形というわけではありません。

山田市長

わかりました。では、いったんご着席ください。

ただいまご説明いただきました。複合施設ということではあるのですが、教育会議ということで、公民館を中心に議論をしていきたいとは思いますが、この複合施設についてのご意見・ご感想があればお願いします。

では、地元の洞口委員をお願いします。

洞口委員

今拝見して感じたことは、エレベーターが付く位置から、調理場が遠いのではないかと思います。物を運ぶときに、ずいぶん台車で運ばなければならないのではないかと、距離的にどうなるでしょうか、というのがまず一つ。それから、雪・雨には、テラスはずぶぬれになるのですかね、雨の時は利用できないのですかね、というのがあります。

山田市長

テラスの庇が必要ではないか、ということですね。

浅野委員はいかがでしょう。

浅野委員

先ほど、児童センターの遊戯室が狭く、公民館のホールはどうか、という話がありました。下増田公民館は、今まで体育的なことができるホールがなかったので、どの位の方がそ

ういうことをしたいのか比較できず、予想つかないとは思いますが、私が公民館に勤務していた時のことを思えば、午後4時から7時までではほとんどホールを使わないことが多かったので、そうなるとう児童センターの子供たちが使うことはできる、空きの時間なのかな、と思いますので、毎日ではなくても、午後の時間帯は子供たちが利用できるかもしれないな、と思いました。

それから、事務室を分ける、というのは、確かに結構大きな建物になるので、学校側、駐車場側できちんとう見守りの体制ができるようにした方がいいな、と思いますので、いいアイデアだと思いました。

山田市長

公民館のホールを、児童センターとして使えるような、例えば、曜日分けるとか、今は狭いホールなので、公民館のホールを使っている人はいないと思いますが、各種団体、午前午後、他の公民館はほぼ埋まっていますよね、しかも、立派なものが出て使える、となれば、おそらく何々愛好会、みたいなのところから、使いたい、という話が出てくるのが予想されるし、むしろそうなることで地域が活性化されてくると思うので、その一方で、児童センターの遊戯室、児童の数からして狭いと思います。その辺を、児童センターの遊戯室をそのまま、ということであれば、週に何度か、大きい、広いホールを使えるようにするとか、その辺、公民館とう児童センターの連携が必要なのかな、と感じました。

荒井委員いかがでしょうか。

荒井委員

今市長さんおっしゃったとおり、今だけの問題なのかもしれませんが、子供は多いので、今の段階で拝見していても、外で遊んでいる子供がとて多くて、遊具に張り付いている子供たちが多いので、外の整備も必要なのかな、と思いました。

それから、土手は階段を作ることはできるのでしょうか。土手をいじってはダメだ、という話をどこかで聞いたような気がするのですが。

山田市長

これは、階段は作るのですか。

佐藤生涯学習課長補佐

すみません、土手の階段はイメージでして、そこまではやらないつもりです。

荒井委員

向こう側は何も作れないと思いますし、逆に作ったら危ないと思います。土手にはいかな方がいいのかな、と思います。

山田市長

そうですね。
佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

楽しみだな、という感想です。物をつくるということで、楽しみなのですが、公民館と児童センターの合築なので、交流というソフト面を充実させていただいて、地域の高齢者の生きがい、子供たちと触れ合って、役に立ててよかったな、と思えるような、イベント・企画を考えていただければ、下増田の活性化につながるのではないかと思います。

山田市長

なるほど。ありがとうございます。その辺、何か考えていることはあるのでしょうか。

大澤次長兼生涯学習課長

今の委員さんのご意見にもありましたが、今年の下増田公民館まつりですが、下増田児童センターのこどもまつりと同時開催ということで、今後の合築を見越した形で、日程を合わせて開催したということもございます。そういったことを、通常の公民館、児童センターの事業の中でも、施設面でも、運営面でも、協力して行っているということがございます。これからは建物も一つになりますので、さらに連携しながら進めていけるような公民館を考えております。

山田市長

そうですね。男の学び舎さんや、ワッショイDEN×3さん、とか、盛んな地域ですので、地域が子供たちのためにということも含めて、頑張っておられる地域なので、地域の特性を最大限生かせるような仕掛けをお願いしたいところです。

そのほか、合築を進める上で課題とか懸案とか、こうあったらいいな、というような希望はありますか。

洞口委員、いかがでしょうか。

洞口委員

この合築の建物のイメージの色などは決まっているのでしょうか。

山田市長

その辺、公民館を作り上げていく上で、進め方、というか、地域への説明等はどうなっているのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい、12月中旬に一度説明会を持ちまして、実際の間取りに合わせた形で住民の皆さんの意見をいただきたいと考えてございました。

また、1月下旬から2月上旬位に、懇話会で最終的なデザインを確定しますが、進捗状況等もお知らせしながら、意見を取り入れていきたいと考えております。

山田市長

その説明会は、地元の方ならだれでも参加できるのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今は懇話会に対して、という形で考えております。

山田市長

メンバーはどのような方でしょうか。地域の町内会長さんとか、区長さんとかのメンバーでしょうか。

齋藤こども支援課長

児童センター関係では、地域活動クラブ、PTAのメンバーも入ります。

山田市長

いずれ、令和5年5月開館を目指しているということで、教育長、これまでの話を受けていかがでしょうか。

瀧澤教育長

先ほどの説明に、外からの非常階段がありましたが、やはり、震災の時に浸水したところですし、下増田の子供たちも5名亡くなっており、学校も防災教育に力を入れておりますが、非常階段が本当にあそこがいいのか、とか、1か所でもいいのか、とか、駐車場側に必要ないのか、とか、防災面で少しこれから見直す必要があるのかな、と思っております。また、話題にも出しましたが、せっかく合築するので、地域活動と児童センターの活動、それから学校も隣接しておりますので、学校の教育活動との交流とか、それが相乗効果をもたらすように、これからソフト面でどうやっていくか、学校も交えて協議していく必要があるのかな、という感じがしております。

ホールの問題も出しましたが、せっかく作るので、あえて使わなくてもいいのかもしれませんが、放課後であれば学校の体育館も空いておりますので、そういったところの活用も、今度は道路を横断しないので、かなり自由にできるのではないかと思いますので、運用とか、そういうところで工夫していけるのではないかと思います。

それから、地域学校協働活動が、下増田は本部が公民館にあるので、それも活用していくと、何かユニークな活動ができそうな気がします。

山田市長

ありがとうございます。本当に楽しみな施設ですので、地域の声をよく聞いて、合築に向

けて進めていただきたいと思います。

そのほか、皆さんからご意見・ご要望・課題、皆さんからありますでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

非常時には避難所になると思うのですが、太陽光発電はどれぐらいの電力というか、どれぐらい対応できるということで想定しているのでしょうか。

山田市長

なるほど。太陽光発電について、いかがでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今考えてございますのは、基本的には通常の発電機で非常用の電源を確保する部分でございます。もう1つが、現公民館に、太陽光発電の施設がございますので、それを移設できないか検討しているところでございます。すみません、太陽光の容量については、今手持ち資料がございません。

大澤次長兼生涯学習課長

現在、太陽光を載せている施設はありますが、十分な電力を供給できるということではございません。最低限のコンセントの利用ですとか、最低限の照明に電源を供給するという程度で、今は賄っております。また、非常用のバッテリーも備えておりますので、例えば若干曇っていても、使える、という状況にはなっております。

山田市長

閑上小中学校だと、あそこに設置している太陽光発電で、1日か2日持つ、というような話を聞いたことはあるのですが。

瀧澤教育長

市役所にもあるかと思いますが、赤いコンセントが太陽光と繋がっていて、はっきりした時間は分かりませんが、太陽光をつければ、一定の時間、停電になっても使えます。

山田市長

その辺、調べていた方がいいかもしれません。防災の面で、こういうことに取り組みます、ということをしっかり説明できるようにしておきたいと思います。

他はよろしいでしょうか。

それでは、事務局は本日の協議内容を十分に取り入れていただき、事業に取り組んでいただきたいと思います。

総合教育会議はこれまでとさせていただきます、以上で本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

その他、事務局から何かありますでしょうか。

芳賀教育総務課長

特にございません

山田市長

ないようですので、以上で終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。事務局へお返しします。

芳賀教育総務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第14回名取市総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻

午前10時40分

令和3年度 第14回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和3年11月30日（火）

2 会議の場所

名取市役所3階 議会棟第3・第4委員会室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 佐藤 俊隆

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 荒井 龍弥

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

菊池教育部長、鈴木理事兼学校教育課長事務取扱、大澤教育部次長兼生涯学習課長、芳賀教育総務課長、小松文化・スポーツ課長兼復興ありがとうホストタウン推進室長兼市史編さん準備室長、齋藤こども支援課長、高橋指導主事、森下指導主事、佐藤生涯学習課長補佐、宇田教育部企画員兼教育総務課長補佐、菅原教育総務課教育総務係長

7 議題

(1) GIGA スクール構想(モデル校の取組)について

(2) 下増田公民館と下増田児童センターの合築について

8 開会時間

午前9時30分

9 会議の概要

芳賀教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に入ります前に、資料の確認をお願いします。第14回名取市総合教育会議次第と、出席者名簿をご用意させていただいております。不足がありましたらお教え願いたいと存じます。よろしいでしょうか。

また、本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ第14回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症も、ようやく落ち着いてきたようにも感じておりましたが、ここにきてオミクロン株という、新たな変異株が出て、大変憂慮しているところです。

いずれ、少しずつかつての生活を取り戻していけるように、できる対応を、教育現場ともしっかり連携をして進めていきたいと考えているところです。

本日の総合教育会議のテーマは、「GIGAスクール構想（モデル校の取組）について」、と「下増田公民館と下増田児童センターの合築について」ということで、第12回の総合教育会議でも同じテーマではありますが、その後の経過等について情報共有をさせていただきながら、さらに議論を深めてまいりたいと考えているところでございます。ぜひ、皆さんの忌憚のない意見をいただければと思います。今日はよろしく願います。

芳賀教育総務課長

それでは、3の議題に入ってまいります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めていただきます。山田市長、よろしく願います。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしく願います。

まず初めに、議題（1）GIGAスクール構想（モデル校の取組）についてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

鈴木理事兼学校教育課長事務取扱

学校教育課の鈴木でございます。お手元のプレゼン資料、黄色いスライドが載っているものと、別紙1、令和3年、4年の名取市のiPad活用モデル事業、以上の資料になります。これから指導主事が、モニター画面でプレゼンをしながら説明を申し上げます。黄色いスライドの資料を使いたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

森下指導主事

皆様、こんにちは。学校教育課の森下博史です。本日はどうぞよろしく願います。

では、GIGA スクール構想（各校の取組）について、説明いたします。

今年度から、高館小学校、相互台小学校、みどり台中学校において、名取市 iPad 活用モデル事業を展開しております。本日は、授業における iPad の効果的な使い方について説明いたします。

初めに、iPad の効果的な使い方として、課題や資料等を提示する場面での活用が挙げられます。授業の導入で、本時の目標や課題を児童生徒に提示することがあります。また、授業の中で、資料等を提示することもあります。これまでは、黒板に書いたり、掲示物を作成したりして、課題や資料等を提示していました。これが、iPad の導入により、課題や資料等の作成が容易になりました。

こちらは、英語の授業です。iPad で作った英語の課題を大型モニターに表示したものです。

こちらは、理科の授業です。iPad で撮影した実験器具の完成した形を大型モニターで、児童生徒に示しています。こちらは、算数の授業です。教員が iPad で作成した目的地までの経路の資料を児童生徒の iPad に送信したものです。児童生徒は送信された資料を自分の iPad で見ることができます。児童生徒が資料に書き込むこともできます。

次に、児童生徒の意見や考えを共有する場面での活用が挙げられます。新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。各学校では工夫した実践が行われています。授業では、児童生徒が自分の意見や考えをもとに、グループで話し合う場面が多く設定されています。これまでは、黒板やホワイトボード、画用紙などを使って、グループやクラス全体で一人一人の意見や考えの共有をしていました。これが、iPad の画面上で、児童生徒の意見や考えの共有ができるようになりました。

こちらは、英語の授業です。Jamboard というアプリを使って、英文をグループで作成しているところです。

こちらは、算数の授業です。iPad で撮影した児童生徒のノートなどを、大型モニターに表示することができます。大型モニターに表示されているのは、赤丸をつけた iPad で撮影した児童のノートです。この機能をエアドロップといいます。Wi-Fi を使わずに簡単に送信する機能です。他の児童生徒の iPad にも送信することができます。

次に、動画を記録する場面での活用が挙げられます。これまでは、ビデオカメラなどで撮影したり、友達から教えてもらったりして、自分の活動の様子を確かめていました。このため、事前の準備が必要でした。これが、児童生徒が自分の活動を iPad で記録できるようになりました。

こちらは、理科の授業です。電池で風車を回す実験の様子を iPad で記録しています。

こちらは、音楽の授業です。児童生徒がお互いに、箏の演奏を iPad で動画に記録しています。記録した動画は iPad で見ることができます。これにより、自分の技能を正確に確認できるようになりました。

こちらは、英語の授業です。英文の音読練習をお互いに iPad で動画に記録しています。

こちらは動画をご覧ください。

（英語の授業の様子を動画で視聴）

次に、アンケートを実施する場面での活用が挙げられます。これまでは、アンケート用紙

を準備し、児童生徒が記入していました。その後、回収、集計を行い、結果を発表していました。これが、大型モニターの2次元バーコードをiPadで撮影するだけで回答ができるようになりました。撮影すると、iPadにアンケートが表示されます。児童生徒は、その画面に入力するだけです。児童生徒が入力すると、自動で集計をします。自動で集計するので、このように、その場で集計結果の発表もできます。

次に、インターネットでの調べ学習をする場面での利用が挙げられます。これまでインターネットでの調べ学習は、コンピュータ室で実施していました。これが、iPadの導入により、普通教室でいつでもできるようになりました。

その他、iPadのアプリを活用した授業が行われています。

こちらは、音楽の授業です。アプリを使って作曲している様子です。このように、iPadが効果的に活用されています。

一方で、課題も見えてきました。

モデル校から挙げられた課題は大きく3点あります。

1点目は、iPadの機能やアプリの操作法の習得が必要で、時間を要することです。児童生徒はもちろんですが、教員もスキルの向上が求められます。

2点目は、不具合の発生が予想できないことです。iPad上にあるアプリやインターネットの接続が途中で停止することがあるという報告を受けています。こちらは、業者等と連携しながら不具合の解消に努めていきたいと思えます。

3点目は、授業の中でiPadを使うことが目的とならないことです。授業のねらいに沿ったiPadの効果的な使い方について、今後さらに実践を重ね、検証していく必要があります。

では、モデル校の今後の取組について、3点説明いたします。

初めに、オンライン学習です。高館小学校が10月13日に実施しました。そのときの様子を動画でご覧ください。

(動画で高館小学校のオンライン学習の様子を視聴)

2年生「〇から始まる言葉を答えよう」です。こちらは、担任の先生です。担任が、家にいる児童に対して、問題を出しています。最初は「カ」から始まる言葉を児童が答えています。次は、「ス」から始まる言葉です。担任だけでなく、ほかの児童ともやりとりができます。

次に、不登校支援への活用です。

現在、不登校児童生徒に対する学習支援などが求められています。そこで、iPadを効果的に活用できるのではないかと考えています。その最初の段階として、不登校児童生徒とオンライン形式での交流を行います。みどり台中学校が10月26日の公開授業で実施しました。

最後に、iPadの持ち帰りです。現在モデル校で実施しております。来年度からは、全ての学校で実施する予定です。いずれの取組も、さらに実践を進め、成果と課題を検証してまいります。

これで、GIGAスクール構想（各校の取組）についての説明を終わります。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

初めに、ただいまの説明で確認しておきたい事項や、去る 10 月 26 日にみどり台中学校、11 月 12 日に高館小学校でモデル授業の公開が行われましたが、その感想なども含めて、何かあれば、お願いします。

いかがでしょうか。皆さんご覧になりましたよね。荒井委員いかがでしょうか。

荒井委員

私は高館小学校にお邪魔しました。先生方も、当初、昨年の導入直後よりは操作もスムーズになってきたな、と思います。課題提示とか、教材提示といったところはすごく子供たちにもスムーズに行っていて、ストレスはないような感じがしました。そういう使い方は iPad を上手く使っているんじゃないかな、と考えたところでした。

山田市長

ありがとうございます。佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

iPad の一番の利点は課題提示だろうな、とは思っています。私も 3 年ぐらい毎時間 iPad で課題提示をする、というか、英語の場合だと、教科書を撮影して、本文を拡大表示して、それを見ながら音読をするということで、非常に集中力が高まって良かったり、音声も入っているんで、単語も、iPad 一つで、発音の確認ができたりなど、教員が活用する分には効果的だな、と思いました。あと、みどり台中学校の時には、市長さんもいらっしゃったと思いますが、音楽の琴の演奏をやっていて、それを撮影して、自己評価する、というような、それが一番あの授業の中では効果的だったのではないかと思います。それ以外の、「みどり台中学校をよくするには」、というような発表もありましたけれども、あれは iPad はなくてもいいのではないかと、むしろ逆効果ではないのか、と、iPad の使い方ひとつで良くもなるし、意味のないものにもなる、という印象を受けています。

山田市長

確かに、課題提示をして、コミュニケーションを取ってやり取りするところでは本当にいいツールだな、と感じておられて、一方で、今おっしゃったとおり、課題にもあがっているとおり、効果的な使い方ということですかね。そこはこれからの課題になるのかな、と思います。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

私はみどり台中学校を見させていただきました。良かったところとしては、先生の授業の準備が、私の小学校の時のことを思い出すと、オーバーヘッドとかで、先生が図形を手で書いてきたんだな、ということがありましたけれども、それを iPad の中ですぐに準備ができて、すぐに提示できるということは、先生方も準備の点では楽になられたんだろうな、というよ

うに思うのですが、実際に子供たちと画面共有をしたりするときの接続、通信障害ですか、そういう時のタイムラグによって子供たちが集中できていない、私も見ていて、こんなに時間がかかるのか、どうなっているのかな、となると、その部分で、長くない授業時間がもったいないことになるな、とは思ったのですが、業者さんが来ていらしたということで、そこはモデル校であるからの今の状態であって、今後改善されていくのだろうな、とは思ったのですが、そういう部分、また、ディスカッションをする時間で、子供たちは、せっかく目の前にいるのに、画面ばかりを見て、画面の中でディスカッションしているのはどうなんだろう、と。目の前にいるのに、きちんと対話での班での話し合いをしたほうがいいだろうに、画面を見ている時間の方が長くて、それは学校にせっかくみんなが集まっているのに、やる必要があるのかな、と、やはり使い方で全然違ってくると感じました。

今、娘が自宅で zoom で語学の勉強を、カナダの先生に教わっており、なんて便利な時代になったのだろう、と思います。でもそれは、心身ともに成長した人が画面の中でやりたいことを、やりたい勉強をやっているからできるんだろうな、と、娘を見て思うのです。小学校はなかなか、使い方を限定してあげないと、わざわざ入れた意味がなくなってしまうので、これからの見極めになるのかな、と感じました。

山田市長

やはり、メリットとデメリットがあって、今おっしゃっていただいたのは、せっかく人と人がリアルで集まっているのに、画面越しに会話をしている、相手の目を見ずにコミュニケーションをしている、ということは、リアルはリアルで大事にしたい、ということですね。なるほど。ありがとうございます。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

モデル事業として、4月から始まったわけですが、やはり皆さんがおっしゃったとおり、使い分けというか、授業によっては、例えば動く、体育の授業、それから音楽で声を出して歌う、英語でお話をするということでの iPad の活用は大変いいと思います。それから、社会では、教科書で地名だけ、絵だけで見ても分からない場合、動くような画面で、例えば遠くの地名、ニューヨークを検索すると、その地域のことを見ることができるので、そういう使い方はとてもいいと思いますね。それで、先生方も大分慣れてきたと思うのですが、生徒たちも同じなのですが、開くのに時間がかかったり、そういうことがスムーズにできるようになればいいな、と思います。時間のロスが少し出ているのではないかと心配しておりました。先ほど、画面で見たものは、iPad で撮ったものをホワイトボードとかテレビとかで、皆で共有できるということはすごくいいことだと思っております。やはり、使い方を早く覚えて、授業がスムーズに行くことを願っております。

山田市長

情報共有とか、コミュニケーションという部分では非常に良いけれども、不具合による時

間のロスとか、やはりプラスマイナス両方ある、ということだと思います。

今、モデル校での公開授業を見ていただいたの感想ですが、これについて教育長いかがでしょうか。

瀧澤教育長

私は課題としても上がっている、効果的な活用としては、資料提示は本当に効果的だと思います。私は学校現場の時に、社会科の時間に、やはり社会科の時間だと学年が上がるにつれて現場に行けなくなることが多いので、視覚的に訴えるものが必要だという考えで写真を使ったのですが、昔だとリバーサルフィルムで写真を撮って、写真屋に出してスライドを作ってもらって、教室を暗くして映写機で映す、という使い方をしていました。今だったら iPad で写真を撮って、その場ですぐに見せられる、ということで、そういう面でも先生方にとっては非常にいいアイテムの一つではないかと思います。反面、先日県の方で iPad を使う頻度の調査がありました。毎時間使っている、毎日使っている、週に何回使っている、というような調査があったのですが、私はそういう調査はやめてほしいと思っています。いかにもたくさん使うことがいいことだ、というように捉えられかねない。使わなければならないんだ、というプレッシャーは必要ないと思います。ただ、今年特に難しいと思ったのは、全員が持ったのが今年初めてで、先生方も初めてなので、ある程度スキルを身に付けるための時間が必要だと思うのです。例えば、自転車を預けられても、乗れなければ何も使えませんので、ある程度練習して交通ルールを守れば、必要な時に自転車が使えますが、iPad も今、子供たち比較的使えますが、スキルを身に付ける時間というのが必要ですので、この授業で必要な、と思っても、使わせないことには慣れない、慣れてから初めて必要な時に使える、ということになります。私が今必要だな、と思っているのは、来年度以降、1年生から中学3年生までの間で、どういう授業で使って、どういうスキルとか、情報リテラシーを身に付けていくのか、カリキュラムを考えて使わせていかなければならないのではないかと。もちろん、ガチガチのカリキュラムではなくて、学校で、先生方の考えで、弾力的に使っていただいていると思うのですが、その辺を、来年度までモデル校の取組がありますので、その辺を視野に入れて取り組んでいただけたらいいのかな、と思います。

山田市長

ありがとうございます。

カリキュラム化していくということで、一定のお考えが出てきましたけれども、これからは今のモデル校の感想から出てきた課題やいいところ、というところも含めて、先ほど、資料の方でも、操作方法の習得であるとか、不具合の発生の対応、効果的な使い方ということで挙げられておりました、皆さんからの感想もそれに沿ったような形で出されておりますけれども、今後の GIGA スクールの取組について何かご意見があればいただきたいと思います。

佐藤委員お願いします。こういうことが課題なので、こうだといいな、ということでも結構です。

佐藤教育長職務代行委員

GIGA スクール構想の前に、学力とは何か、ということをもう一度考えなければならないと思います。とても効率が良くなったということはあるのですが、例えば授業をスムーズに進めるために、プリントを配って、書き込んで、というような感じで、流れはスムーズですけれども、ノートをしっかり取るとか、ノートに自分の考えをまとめるとか、そういうような学習がおろそかになっているとか、軽視されているのではないかということで、昔から「剥げ落ちる知識」という、大学入試が終わったら、そこがピークで、あとは忘れていく、と、そういうことがありますけれども、剥げ落ちてもいいのですが、その後何か残るのか。しっかりと自分の考えをまとめる力とか、自分の体験と結び付けて、ここは分かって、ここはまだ分からないから、ここはしっかりと勉強する、という振り分けとか、そういう力がちゃんとつけられていくのだろうか、ということがとても不安なのです。とても便利で、書かなくても済む、ということがありますが、キーワードを見て答えを出すというようなことが習慣になっていって、そういうことがなくて、本当に自分の考え、伝えたいことをしっかりとまとめるとか、そういうことを重要視しなければならないのではないのかな、と思います。iPad を使って、それについてきちんと説明できる力とか、プレゼンテーション能力ということで、そこを重視したような指導の仕方に時間をかけてやっていただけたらいいのですが、ただアイデアを発表してはい、終わり、というようなことがあるとまずいな、と思いました。高館小学校の時に、「高館をよくするために」ということで、イチゴ摘み体験とか、産直市場とかいろいろ出ましたけれども、本当に自分たちが、次にはどういう段取りで、どういう課題があって、とか、そういうことを深めて考えていって、小学校6年生なりに一つ、こういうことができたね、と、そこまでいけば本当の学習ですけれども、ただ思い付きを言って終わり、ということでは何の深まりもないな、と。学力とは、生きる力とは何なのかな、ということをもう一度考えながら授業をやった方がいいな、ということを感じておりました。

山田市長

大変深い、根本にかかわるお話をいただきました。非常にありがたいお言葉だと思うのですが、おそらく、ノートを取ることで善、ではないのですが、ノートを取ることで、自分の頭の中に入って、考えることで、自分で組み立てをして、想いをどう伝えていくか、ということにつながるということだと思います。ただ、パッと画面に映ったものをみて、分かった気になっているということは、「剥げ落ちる知識」ということなので。一方で、これからの時代、iPad を含めた、ICT、機械を使っていかなければいけないこともあると思いますので、その辺の歩合、ですよね。非常に深いテーマをいただきましたけれども、荒井委員はいかがでしょう。

荒井委員

今思い出しましたが、私が小学校の頃に、特別な教室があって、机にボタンが埋め込んであって、プログラム学習、アナライザーがあって、子供心に、おもしろそうだな、先生やってくれないかな、と思ったことはあったのです。でも、その後の研究などをみると、すぐに

飽きる、と。それで、広がらなかった、という総括がなされているんですね。この、GIGA スクールに関して、最初は子供たちが興味を持つ、おもしろそうだな、と。この段階は当然そうなのですが、いずれそれは、それだけでは飽きる、というのが目に見えておまして、子供の興味だのみでやっていると、同じ轍を踏んでしまいかねないと思って伺っておりました。その時に、学力に関して、単に答えを出すだけの、芸を仕込むような教え方ではだめではないか、という批判がなされたように読んだ覚えがあります。そういうところを超えて、ツールとしては、いろんな使い方ができると思いますので、そういったところを上手く使っていく必要があるのかな、と思っております。例えば、データを保管したり、検索したりすることが飛躍的に簡単になっていると。しかも、場所を取らない、というのがデジタルとしてのメリットなのかな、と思います。とすれば、その学習内容を、個人ごとに、とか、クラスごとに、保管することがすごく簡単になるはずで、先ほどの琴の使い方にしても、何かの使い方にしても、映像にしても、取っておくことができ、じゃあ、自分が、今、この場でこうだった、というだけではなくて、ひと月前は、琴の演奏がこんなに下手だった、みたいなことも振り返ったり、そういうような、学習の進行状況が自分で把握できるようなものに、いわゆるポートフォリオのようなものが充実できると、自分の歩みみたいなものが、より明確に把握でき、じゃあ、次はこうしよう、ということを目指しやすくなるのではないかと、思っております。

山田市長

ICT の特性を生かした使い方、ということですね。データの保管とか検索とか。それは一つありますよね、答えを出すだけの教え方ではなくて。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

先ほど佐藤委員がおっしゃったように、私もそういう考えで、ノートにとることを忘れてしまうのではないかな、という心配はあります。それがデメリットかな、と思います。やはり、自分の考えをきちんとまとめるということが大事な、と思っております。何か月か過ぎましたけれども、来年度 iPad を使って、どういう感想を得たか、という作文を生徒たちに書かせるというのもいいのかな、と思いました。書くことを忘れさせてはダメかな、と思っております。やはり、メリハリ、使う時は使う、使わないで全部手書きで授業を受ける、とか、メリハリをつけた授業を取り組んでいただきたいと思います。今、世の中が、毎日激しい変化ですね。事件も起きますし、事故も起きますし、こういう社会の中で活躍できるような強い子供たちに育ていくために、iPad をいかに使っていかかというのもこれからの課題なのかな、と思っております。

山田市長

ありがとうございます。子供たちに感想を書かせてはいかがか、というアイデアをいただきました。

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

もう、ICTを使わない、という方向にはいかないの、世の中が、学校だけではなくて、ということなので、やっていかなければいけないのしょうから、モデル校はあと1年、モデル校としての苦勞が今後もついていくのだろうな、と思うのですが、まずは先生方からメリット、デメリットを把握して、こういうふうに行けばいいんだ、というものがあれば、子供たちは素直についてくると思うので、この3校の先生方はご苦勞になるかと思いますが、ぜひいい方向になるように検討して、いい使い方をしていただけたらいいな、と思います。

山田市長

ありがとうございます。ちょっと、先生はプレッシャーですね。

みどり台で不登校生徒に使ったり、など、ICTだからこその学びというか、教え方というか、その辺についてアイデアだったり、ご意見だったりということはありませんか。こういう使い方をすれば良くなる、というような。

佐藤教育長職務代行委員

普通には使えます。私も2年間オンライン授業をしましたが、普通に画面の前で、実物を持ってきて実験を実際にやって見せて、こういうふうに、今の体験を生かして簡単に解けるんだよ、ということをやって、その後で問題を解かせてみせる。例えば公園のシーソーや、天秤のつり合いの実験をして、から画面上の問題を解かせると、あっという間に解けるので、ああ、そうなんだ、となって普通の教室の授業を持ち込めることは持ち込めます。それは、完全に臨時休業になった場合、オンライン授業でやる場合ですけれども、教員の方の工夫というか、いろんなデータ、ノウハウを教員の方で蓄積して行って、いつでも使えるような経験を積んでいけば、普通の教室でも、必要なところだけ選んで、ということもできると思いますが、今のところ、荒井先生が言ったとおり、自分の学習の記録をしっかり取るとか、自分のパフォーマンスを期間をおいて記録して、成長を捉え、記録しておくとか、あるいは自分のノートとか、友達の素晴らしいノートを撮っておいて、それを生かして使うとか、あるいはプレゼンテーションのためのパワーポイントのようなスライドを作って、実際本当にきちっと、原稿を読まずに絵を見て伝えられるように練習するとか、そういう形であると、今後にふさわしい力がつくのかな、と思います。

山田市長

はい、視覚に訴えるやり方、プレゼン力、データの保管、検索、そういった特性を生かして、ということですが、では、教育長、次年度に向けてまとめをお願いします。

瀧澤教育長

不登校の話が出ましたが、まだ限定的ですが、不登校の子については、はなもも教室があっ

たり、別室登校があったり、たくさんのチャンネルを作ってあげた方がいいと私は思っているんです。学校にも、はなももにも来れないけれども、オンラインだったら人と繋がれる、という子供がいたら、積極的に活用して、少しずつ心を開くような使い方ができれば、これは来年度にかけても、ぜひ試行していききたいな、と思っております。

また、私がいいな、と思うのは、自分を客観的に見ることができる、琴の演奏であったり、あとは前に見た体育のマット運動を動画で撮って自分で見ることができる、鏡の前でやるぐらいしかできなかったことができる、というのは、非常にすごいと思います。ただ、先ほど他の委員さんもおっしゃっていたとおり、子供にどこまで使わせるのかというのは、大人と違うと思うのです。例えば、文書を活字で見ると、タブレットで見ると、活字を目で追って見ていった方が、きちんと頭に入る、そういう力、あるいは考えながら書く、という力が、ある程度小さいころから身につけている大人がタブレットを見るのと、それがまだ未成熟な子供が使ってしまうのでは、違うような気がします。

もう一つ、違う観点からですが、先ほど不具合があったときの対応ということがありましたが、授業中、想定外のことが起きるのは日常茶飯事のことなのです。例えば、こう聞けばこう答えるだろう、と思っても、子供は全然違うことを言うこともありますし、あるいは実験が上手くいかないこともあります。大事なものは、授業のねらいと組み立てを先生がどれだけしっかり持っているか、授業力があれば、仮に iPad に不具合があった時に、どう対応できるのか、授業をそこで中断するのではなくて、授業の組み立てを考えていって、応用力ですとか、そういった力を持っていればいいと思うのですが、それで授業ができなくなるようでは困るな、と思います。

山田市長

大変厳しい意見ありがとうございました。

それでは、この件についてはよろしいでしょうか。他にありますでしょうか。よろしいですか。

以上で、この件につきましては終了とさせていただきます。

それでは、次の議題に移らせていただきますが、出席者入れ替えのため暫時休憩とさせていただきます。

(出席者入れ替え)

山田市長

それでは、再開いたします。次に、下増田公民館と下増田児童センターの合築についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

大澤次長兼生涯学習課長

それでは、下増田公民館の合築の関係ですが、資料は用意しましたが、今日は模型を用意してございますので、この模型を使いまして説明したいと思っております。生涯学習課の佐藤課長

補佐から説明いたします。

(出席者、模型を囲み、模型により説明を受ける)

佐藤生涯学習課長補佐

こちらが、プロポーザルで1位になった設計でございます。増田川のところに敷地がございまして、こちらの方に建物がございまして、鉄筋コンクリート2階建てということで、避難所、避難場所は屋上に避難できるように、あるいはテラスに避難できるように設計されておりまして、外階段がございまして、こちらは庇ということで、この下で人々が集ったり、あるいはお店を出したりとか、そういう工夫ができるような形を考えております。子供たちはグラウンドの端を通ってここから入っていくような形で、逆に公民館の利用者は駐車場50台がございまして、こちらから中に入るようにしておりました。

現在の下増田公民館のホールが狭いので、住民の要望、期待が大きかったのはホールでございました。ホールが500㎡ということで、この中には舞台や緞帳を設けまして、しっかりと発表できるように、あるいは今までできなかったバレーボール、あるいはバドミントンなどの軽運動ができるようにしております。

山田市長

500㎡というのは、どの位の広さでしょうか。

大澤次長兼生涯学習課長

愛島公民館ぐらいです。

瀧澤教育長

フロア部分が同じぐらいで、そのほかにステージが付くということですね。

大澤次長兼生涯学習課長

そうです。

佐藤生涯学習課長補佐

また、ここに三角形がございまして、軽量トラスト構造ということで、工期を短縮するために合理的な設計になっておりました。令和5年5月オープンという目標がございまして、なるべく時間がかからないような工法、かつ安全な工法というところに力を入れております。

また、2階部分は公民館でございまして、避難所機能ということもあり、浸水しない部分に大会議室、小会議室、和室、調理室を配置してございまして。会議室にはスクリーンやプロジェクタ、ホワイトボードを置くことによって、しっかりと学習できるような機能をつけてございます。

山田市長

防災倉庫はどこにありますか。

佐藤生涯学習課長補佐

ここの、壁がありますが、この中になります。

瀧澤教育長

ここから屋上に上がることもできますか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい。可能です。

山田市長

調理室と防災倉庫はそんなに離れていないですか。

大澤次長兼生涯学習課長

はい。ここが吹き抜けになっておりますが、隣り合わせになります。

洞口委員

エレベーターはどこに付けるのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今のところこの辺りを計画しております。

山田市長

公民館利用者は駐車場から入り、子供は小学校側から入ということで、1階が児童センターですね。

佐藤生涯学習課長補佐

そうです。

瀧澤教育長

ここのテラスには、屋根はかからないのですか。

大澤次長兼生涯学習課長

ここないです。ここは延べ床面積には入らない、ということです。

佐藤生涯学習課長補佐

和室の方にはテーブル、椅子を置けるように40㎡、会議室が30㎡で、防音設備をつけて、カラオケや軽音楽ができるように設計の段取りを組んでいるところでございます。

また、エレベータから食材を搬入しまして、調理室で調理をして、この会議室やテラスを使いながら食べるなど、そのような利用ができるかな、と考えております。

そして、「道」というのがこの部分でございまして、この部分で大人と子供が交流できるようにというのが、工夫でございます。具体的には、閑上公民館のように、様々な形の椅子やソファを準備し、Wi-Fiを整備し、本を読んだり、学習ができたり、あるいは地元の方は、子供たちと例えば昔遊びとか、将棋などをやる、などの利用も想定してございます。

この模型は事務室が1室ですが、しっかりと管理するために、こちら側に公民館の事務室、こちら側に児童センターの事務室ということで、1階玄関側に2つ用意したいということで設計しているところでございます。

大澤次長兼生涯学習課長

ももとの提案では、ここの部分がホールの倉庫になっているのですが、事務室を分けた方がいいのかな、ということで、今、その辺に、公民館の事務室を作れないか、ということで検討しております。

山田市長

公民館は、1階に事務室があつて、2階を貸す感じ、ということですね。なるほど。

佐藤生涯学習課長補佐

そしてここ、上の方からトップライトですとか、高い所の窓から、日当たりを確保したいということで、ちょっと大きいのですが、ここから光を取り込みたいということです。

また、児童センターは、1画にまとめて配置することによって、セキュリティ上、管理がしやすい形になっております。クラブ室は、我々の要望は70㎡で6つ、集会室まで入れて6部屋確保してほしいということで要望しているところでございます。

また、子育て支援室を40㎡、専用室15㎡を事務室の近くに、また、事務室に相談室をつけたいな、と考えておりました。また、ここにウッドデッキを設けまして、園庭の方に子供たちが日当たりのいい所から出て、遊べるように、と考えております。遊戯室は大きく作っておりますが、120㎡ぐらいで、空いている時間はこちらのホール、両方で使えるようにしたいと考えております。

山田市長

120㎡だとどの位ですか。

佐藤生涯学習課長補佐

この部屋よりは広いと思うのですが。

瀧澤教育長

ホールが 500 m²でしたか。

佐藤生涯学習課長補佐

舞台込みで 500 m²です。

山田市長

500 m²に対して 120 m²、この模型だともっと大きく見えますが。

佐藤生涯学習課長補佐

こちらは、面積を指定しないで設計していただいているので、これよりは小さくなって、クラブ室等が大きくなるイメージです。

山田市長

そうすると、ホールで遊ばせてほしい、となりそうだけれども、平日の午後はどうですかね。

瀧澤教育長

貸し館との関係でどうなりますかね。

大澤次長兼生涯学習課長

通常のボール遊びができるぐらい、通常の、閑上児童センター位の面積は確保しています。

山田市長

閑上位はあるんですね。

齋藤こども支援課長

バドミントンをするぐらいの広さはあります。

山田市長

閑上児童センターと同じ位の広さはある、ということでもいいですか。

齋藤こども支援課長

若干、一回り位は小さくなると思います。

瀧澤教育長

こども支援課として、もっと広くしてほしいというような要望はありますか。

齋藤こども支援課長

提案ですので、特に今のところは異論は出ておりません。

洞口委員

もう一回りほしい感じですね。

齋藤こども支援課長

そうなると建築費もかさんでしまうこともありますので。

佐藤生涯学習課長補佐

今回、自由な提案を求めたい、ということで、あえて面積を指定せずに様々な発想からいただいたのですが、この提案が一番コンパクトでございました。

また、窓とか、視認性をよくすることによって、外の人達が立ち寄りやすく、なおかつ防犯上も十分配慮できるようにというのがコンセプトでございます。

大澤次長兼生涯学習課長

ですから、これが完成形というわけではありません。

山田市長

わかりました。では、いったんご着席ください。

ただいまご説明いただきました。複合施設ということではあるのですが、教育会議ということで、公民館を中心に議論をしていきたいとは思いますが、この複合施設についてのご意見・ご感想があればお願いします。

では、地元の洞口委員をお願いします。

洞口委員

今拝見して感じたことは、エレベーターが付く位置から、調理場が遠いのではないかと思います。物を運ぶときに、ずいぶん台車で運ばなければならないのではないかと、距離的にどうなるでしょうか、というのがまず一つ。それから、雪・雨には、テラスはずぶぬれになるのですかね、雨の時は利用できないのですかね、というのがあります。

山田市長

テラスの庇が必要ではないか、ということですね。

浅野委員はいかがでしょう。

浅野委員

先ほど、児童センターの遊戯室が狭く、公民館のホールはどうか、という話がありました。下増田公民館は、今まで体育的なことができるホールがなかったので、どの位の方がそ

ういうことをしたいのか比較できず、予想つかないとは思いますが、私が公民館に勤務していた時のことを思えば、午後4時から7時までではほとんどホールを使わないことが多かったので、そうなるとう児童センターの子供たちが使うことはできる、空きの時間なのかな、と思いますので、毎日ではなくても、午後の時間帯は子供たちが利用できるかもしれないな、と思いました。

それから、事務室を分ける、というのは、確かに結構大きな建物になるので、学校側、駐車場側できちんとう見守りの体制ができるようにした方がいいな、と思いますので、いいアイデアだと思いました。

山田市長

公民館のホールを、児童センターとして使えるような、例えば、曜日に分けるとか、今は狭いホールなので、公民館のホールを使っている人はいないと思いますが、各種団体、午前午後、他の公民館はほぼ埋まっていますよね、しかも、立派なものが出て使える、となれば、おそらく何々愛好会、みたいなのところから、使いたい、という話が出てくるのが予想されるし、むしろそうなることで地域が活性化されてくると思うので、その一方で、児童センターの遊戯室、児童の数からして狭いと思います。その辺を、児童センターの遊戯室をそのまま、ということであれば、週に何度か、大きい、広いホールを使えるようにするとか、その辺、公民館とう児童センターの連携が必要なのかな、と感じました。

荒井委員いかがでしょうか。

荒井委員

今市長さんおっしゃったとおり、今だけの問題なのかもしれませんが、子供は多いので、今の段階で拝見していても、外で遊んでいる子供がとて多くて、遊具に張り付いている子供たちが多いので、外の整備も必要なのかな、と思いました。

それから、土手は階段を作ることはできるのでしょうか。土手をいじってはダメだ、という話をどこかで聞いたような気がするのですが。

山田市長

これは、階段は作るのですか。

佐藤生涯学習課長補佐

すみません、土手の階段はイメージでして、そこまではやらないつもりです。

荒井委員

向こう側は何も作れないと思いますし、逆に作ったら危ないと思います。土手にはいかな方がいいのかな、と思います。

山田市長

そうですね。
佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

楽しみだな、という感想です。物をつくるということで、楽しみなのですが、公民館と児童センターの合築なので、交流というソフト面を充実させていただいて、地域の高齢者の生きがい、子供たちと触れ合って、役に立ててよかったな、と思えるような、イベント・企画を考えていただければ、下増田の活性化につながるのではないかと思います。

山田市長

なるほど。ありがとうございます。その辺、何か考えていることはあるのでしょうか。

大澤次長兼生涯学習課長

今の委員さんのご意見にもありましたが、今年の下増田公民館まつりですが、下増田児童センターのこどもまつりと同時開催ということで、今後の合築を見越した形で、日程を合わせて開催したということもございます。そういったことを、通常の公民館、児童センターの事業の中でも、施設面でも、運営面でも、協力して行っているということがございます。これからは建物も一つになりますので、さらに連携しながら進めていけるような公民館を考えております。

山田市長

そうですね。男の学び舎さんや、ワッショイDEN×3さん、とか、盛んな地域ですので、地域が子供たちのためにということも含めて、頑張っておられる地域なので、地域の特性を最大限生かせるような仕掛けをお願いしたいところです。

そのほか、合築を進める上で課題とか懸案とか、こうあったらいいな、というような希望はありますか。

洞口委員、いかがでしょうか。

洞口委員

この合築の建物のイメージの色などは決まっているのでしょうか。

山田市長

その辺、公民館を作り上げていく上で、進め方、というか、地域への説明等はどうなっているのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい、12月中旬に一度説明会を持ちまして、実際の間取りに合わせた形で住民の皆さんの意見をいただきたいと考えてございました。

また、1月下旬から2月上旬位に、懇話会で最終的なデザインを確定しますが、進捗状況等もお知らせしながら、意見を取り入れていきたいと考えております。

山田市長

その説明会は、地元の方ならだれでも参加できるのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今は懇話会に対して、という形で考えております。

山田市長

メンバーはどのような方でしょうか。地域の町内会長さんとか、区長さんとかのメンバーでしょうか。

齋藤こども支援課長

児童センター関係では、地域活動クラブ、PTAのメンバーも入ります。

山田市長

いずれ、令和5年5月開館を目指しているということで、教育長、これまでの話を受けていかがでしょうか。

瀧澤教育長

先ほどの説明に、外からの非常階段がありましたが、やはり、震災の時に浸水したところですし、下増田の子供たちも5名亡くなっており、学校も防災教育に力を入れておりますが、非常階段が本当にあそこがいいのか、とか、1か所でもいいのか、とか、駐車場側に必要ないのか、とか、防災面で少しこれから見直す必要があるのかな、と思っております。また、話題にも出ましたが、せっかく合築するので、地域活動と児童センターの活動、それから学校も隣接しておりますので、学校の教育活動との交流とか、それが相乗効果をもたらすように、これからソフト面でどうやっていくか、学校も交えて協議していく必要があるのかな、という感じがしております。

ホールの問題も出ましたが、せっかく作るので、あえて使わなくてもいいのかもしれません。放課後であれば学校の体育館も空いておりますので、そういったところの活用も、今度は道路を横断しないので、かなり自由にできるのではないかと思いますので、運用とか、そういうところで工夫していけるのではないかと思います。

それから、地域学校協働活動が、下増田は本部が公民館にあるので、それも活用していくと、何かユニークな活動ができそうな気がします。

山田市長

ありがとうございます。本当に楽しみな施設ですので、地域の声をよく聞いて、合築に向

けて進めていただきたいと思います。

そのほか、皆さんからご意見・ご要望・課題、皆さんからありますでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

非常時には避難所になると思うのですが、太陽光発電はどれぐらいの電力というか、どれぐらい対応できるということで想定しているのでしょうか。

山田市長

なるほど。太陽光発電について、いかがでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今考えてございますのは、基本的には通常の発電機で非常用の電源を確保する部分でございます。もう1つが、現公民館に、太陽光発電の施設がございますので、それを移設できないか検討しているところでございます。すみません、太陽光の容量については、今手持ち資料がございません。

大澤次長兼生涯学習課長

現在、太陽光を載せている施設はありますが、十分な電力を供給できるということではございません。最低限のコンセントの利用ですとか、最低限の照明に電源を供給するという程度で、今は賄っております。また、非常用のバッテリーも備えておりますので、例えば若干曇っていても、使える、という状況にはなっております。

山田市長

閑上小中学校だと、あそこに設置している太陽光発電で、1日か2日持つ、というような話を聞いたことはあるのですが。

瀧澤教育長

市役所にもあるかと思いますが、赤いコンセントが太陽光と繋がっていて、はっきりした時間は分かりませんが、太陽光をつければ、一定の時間、停電になっても使えます。

山田市長

その辺、調べていた方がいいかもしれません。防災の面で、こういうことに取り組みます、ということをしっかり説明できるようにしておきたいと思います。

他はよろしいでしょうか。

それでは、事務局は本日の協議内容を十分に取り入れていただき、事業に取り組んでいただきたいと思います。

総合教育会議はこれまでとさせていただきます、以上で本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

その他、事務局から何かありますでしょうか。

芳賀教育総務課長

特にございません

山田市長

ないようですので、以上で終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。事務局へお返しします。

芳賀教育総務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第14回名取市総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻

午前10時40分